

九戸村地域福祉活動計画

[平成31年度(2019)～平成35年度(2023)]



平成31年3月

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

策 定 に あ た っ て

日頃から、九戸村社会福祉協議会の運営に対して、ご理解、ご支援、ご協力をいただきありがとうございます。

少子高齢化が急速に進んでいる今日、核家族化の進行や地域のつながりの希薄化など、私たちを取り巻く環境の変化に伴い、地域福祉の課題も多様化、複雑化してきております。このようななか、地域にお住いの皆様、行政、専門機関、事業者などが連携し、支援が必要な人を支える「地域福祉」の重要性はより一層高まっております。



こういった現状のなか、村では、「九戸村地域福祉計画」（平成30年度からの5か年計画）を策定し取り組みをはじめております。

本会では、村が策定した「九戸村地域福祉計画」と連携協働し、取り組む「地域福祉活動計画」を策定いたしました。

この計画策定にあたっては、各種団体、行政、保健・福祉関係者などで構成した「地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、策定に必要なニーズの把握や課題の整理分析を行い、計画の内容を審議していただきました。

その過程では、村で行ったアンケート結果、地域福祉懇談会の内容を参考にさせていただいたほか、本会独自で行ったアンケート結果等により地域福祉の現状や課題を把握するとともに、本会が現時点での取り組み可能な内容等についても検討し、要望の多かった除雪支援、相談相手・話し相手、買い物支援等については取り組みをはじめております。

基本理念である

「ともに生き、ともに育み、
安心して暮らせる地域社会を目指して」

を念頭に置き、活動を展開してまいりますので、今後ともより一層のご理解やご協力、また様々な地域福祉活動への参加をお願いいたします。

結びに、本計画の策定にあたり、ご尽力いただきました策定委員の皆様、アンケート調査等にご協力いただいた皆様、そして貴重なご意見及びご協力いただいた多くの皆様に心から感謝とお礼を申し上げます。

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

会 長 木 村 正 樹

第1章 地域福祉活動計画の概要

1. 計画策定の背景と主旨

近年、急速に進む少子高齢化や核家族化などの社会構造の変化等により、個人の価値観やライフスタイルが多様化・複雑化しています。

国では、ニッポン1億総活躍プランで「地域共生社会」を実現するとし、住民に身近な圏域及び市町村で「我が事・丸ごと」で相談を受けとめる包括的な相談支援体制を構築することとしており、平成29年度からは「地域力強化推進事業」が推進されており、それと併せて介護保険法を初めとし関連する各福祉法の改正も行われております。

このような中、行政はもとより、地域住民や地域の専門機関、事業者など地域に係るすべての人が連携して、支援が必要な人を支える仕組み作りが重要となっております。

九戸村社会福祉協議会では、九戸村の地域福祉を推進していくため、行政等の関係機関、民生委員・児童委員、ボランティア団体、福祉事業者、各福祉団体、町内会等の参加・協力を得るとともに、これら関係者等と連携をしながら福祉活動を展開してきました。

これらの実践を踏まえ、「地域福祉活動計画」の策定に取り組み、多様な福祉活動や福祉サービスの推進を図ることが、地域福祉推進の中核的団体としての大きな使命となっております。

以上のことから、村民・民間の立場で地域福祉活動をどのように進めていくかを明らかにし、又村で策定している「九戸村地域福祉計画」を受け、行政と村民が役割を分担しながら共に地域福祉活動を展開するため、「九戸村地域福祉活動計画」を策定することといたしました。

◎地域共生社会

地域住民や関係団体などが主体となって、新たな地域のつながりを創っていかうとするものです。

◎「我が事」「丸ごと」

地域で起きているさまざまな問題を他人事ではなく、「我が事」としてとらえ、分野別の相談を世帯として「丸ごと」受け止め、様々な内容を含んだ相談について、何かできないかという意識をもつ考え方です。

2.計画の位置づけ（村が作成する九戸村地域福祉計画との関係性）

「九戸村地域福祉計画」は、社会福祉法第107条に定める市町村地域福祉計画（地域福祉の推進に関する事項を一体的に定める計画）として位置づけられ、地域福祉の推進を図るための理念や仕組みをつくる計画です。

「地域福祉活動計画」は九戸村社会福祉協議会が策定する福祉活動を実行するための行動計画（民間計画）です。九戸村と九戸村社会福祉協議会は、連携・協働して地域の課題を把握し、解決していかなければならず、二つの計画の整合性を図ることが重要です。計画としては別々なものですが、九戸村における地域福祉を推進するという目的は同じです。

これら2つの計画を、共通の目的に向かって融合させながら、九戸村における地域福祉を進めていくことができるよう、九戸村と九戸村社会福祉協議会が互いに連携して計画を策定していくことが必要です。

◎協働

住民活動主体を原則とした各種関係機関・団体・住民等の役割分担により計画的に活動を進める場合に用いる。

3.計画の期間

この計画は、平成31年度を初年度とし、平成35年度を最終年度とする5年間の計画とし、関係法令・制度の改正や社会情勢の変化などによる影響をはじめ、地域における新たな問題、ニーズなどが生じた場合は、そうした状況に対応した取り組みができるよう、計画期間内であっても必要に応じ見直しを行っていくものとする。

○ 計画期間

30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	35年度	36年度
九戸村地域福祉計画					計画の見直し	
	九戸村地域福祉活動計画					見直し

4.計画の策定体制

(1) 九戸村地域福祉活動計画策定委員会

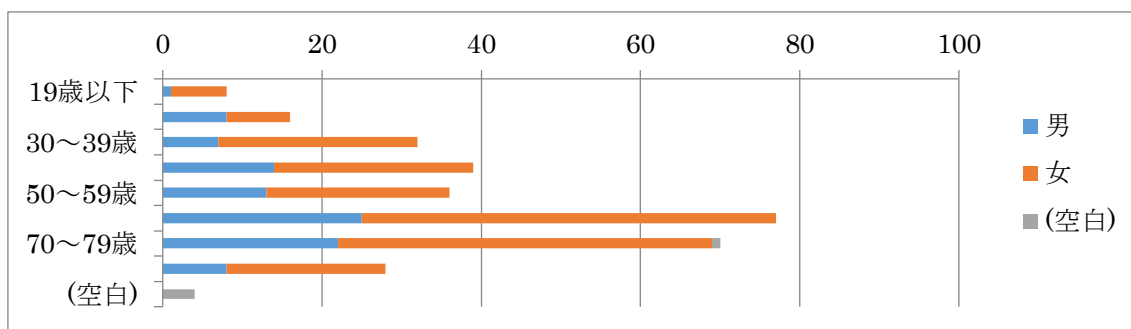
本計画策定するにあたり、住民参加により計画を策定する場として、地域の代表者、福祉関係者、民生委員・児童委員、行政機関関係者などの委員からなる「九戸村地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、審議検討を行いました。

(2) アンケート調査の実施（平成29年6～7月実施）

本計画の策定に先立ち、住民の福祉に関する意識や地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、意見・要望を広くお伺いし、地域福祉活動計画策定の基礎資料とするために、アンケート調査を実施しました。（詳細：別添資料のとおり）

○アンケートをお願いした方々

- ・アンケート実施総数 324人
- ・アンケート回答数 310人 ・アンケート回収率 95.6%



○年齢・男女別

区 分	男	女	(空白)	総計
19歳以下	1	7		8
20～29歳	8	8		16
30～39歳	7	25		32
40～49歳	14	25		39
50～59歳	13	23		36
60～69歳	25	52		77
70～79歳	22	47	1	70
80歳以上	8	20		28
(空白)			4	4
総計	98	207	5	310

第2章 地域福祉を取り巻く九戸村の現状

1. 人口動態等

(1) 人口の推移

九戸村の人口を、国勢調査資料からみると、平成2年(1990年)から平成27年(2015年)の25年間に2,120人減で、26.5%減となっております。

また、国勢調査時点の年齢階層別の比率を、平成2年(1990年)と平成27年(2015年)を比較すると、年少人口6.8%減、生産年齢14.2%減、老年人口21%増で、少子高齢化を数字で確認することができます。とりわけ高齢化の内容を分析してみると、後期高齢者の増加の割合が生産年齢の減少を上回っていることがわかります。

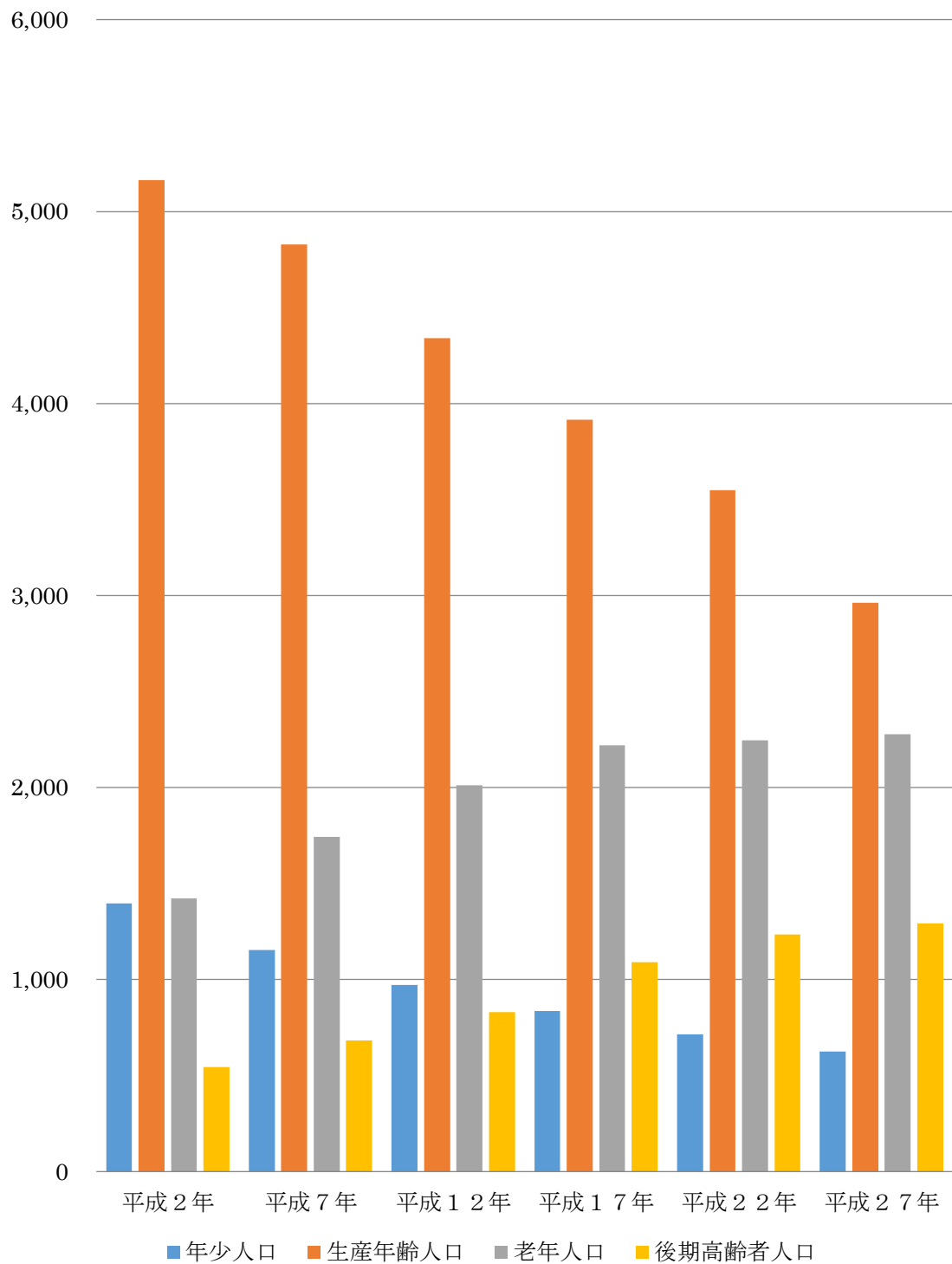
平成2年(1990年)の後期高齢者の占める割合が6.8%で、平成27年(2015年)は22%で、15.2%増となっています。この数値は生産年齢14.2%減を上回る数値であり、長寿社会・超超高齢社会を予想できる数値として捉えることができます。

区 分	平成2年 (1990年)		平成7年 (1995年)		平成12年 (2000年)		平成17年 (2005年)		平成22年 (2010年)		平成27年 (2015年)	
	人 口	比 率	人 口	比 率	人 口	比 率	人 口	比 率	人 口	比 率	人 口	比 率
年少人口 (0～14歳)	1,398	17.5%	1,155	14.9%	971	13.3%	836	12.0%	714	11.0%	625	10.7%
生産年齢 (15～64歳)	5,165	64.7%	4,828	62.5%	4,341	59.3%	3,917	56.2%	3,548	54.5%	2,962	50.5%
老年人口 (65歳以上)	1,422	17.8%	1,744	22.6%	2,012	27.5%	2,221	31.8%	2,245	34.5%	2,278	38.8%
総 人 口	7,985	100.0%	7,727	100.0%	7,324	100.0%	6,974	100.0%	6,507	100.0%	5,865	100.0%

後期高齢者 (75歳以上)	545	6.8%	683	8.8%	831	11.3%	1,090	15.6%	1,234	19.0%	1,293	22.0%
高齢人口と の比率		38.3%		39.2%		41.3%		49.1%		55.0%		56.8%

※ 国勢調査資料より

九戸村の人口動態



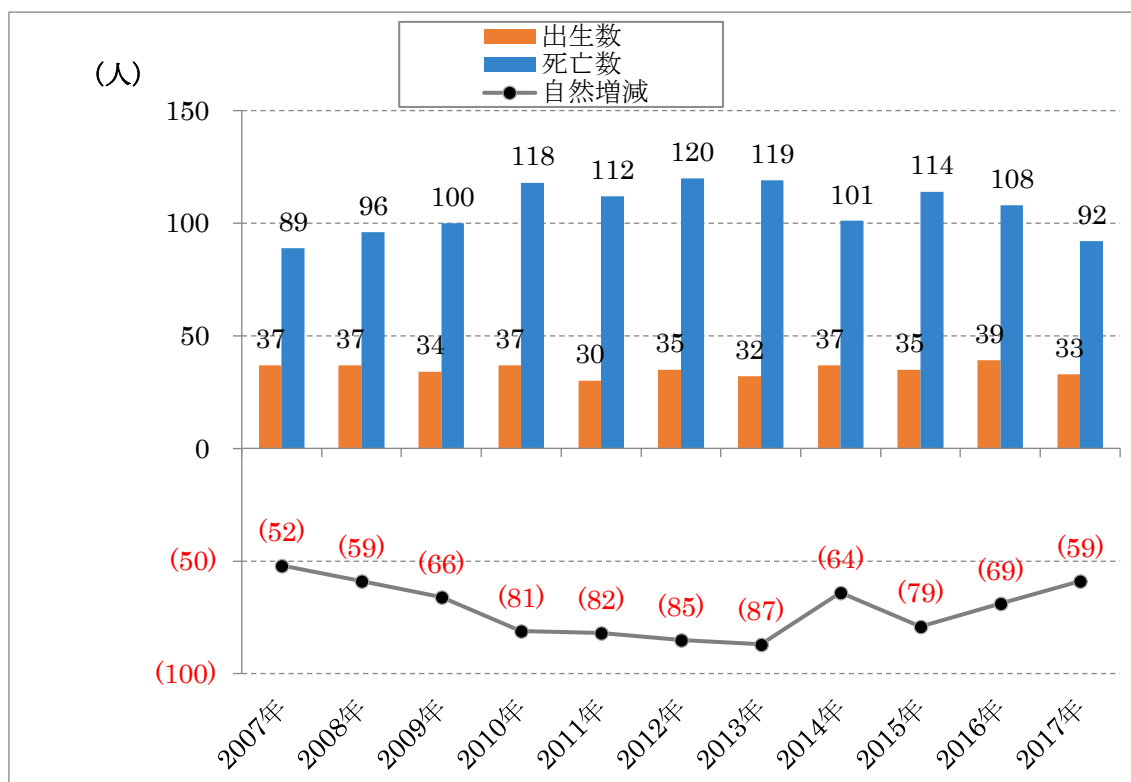
(2) 自然動態・社会動態

自然動態について、出生数と死亡数の推移をみると、常に死亡数が出生数を大幅に上回っていて、過去10年間の平均差がマイナス71人となっております。また、社会動態について転入数と転出数の推移をみると転出数が転入数を上回っていて、過去10年間の平均差がマイナス29人となっております。

自然動態マイナス71人と社会動態（次ページ）マイナス29人を合わせると、過去10年間の平均差がマイナス100人となります。

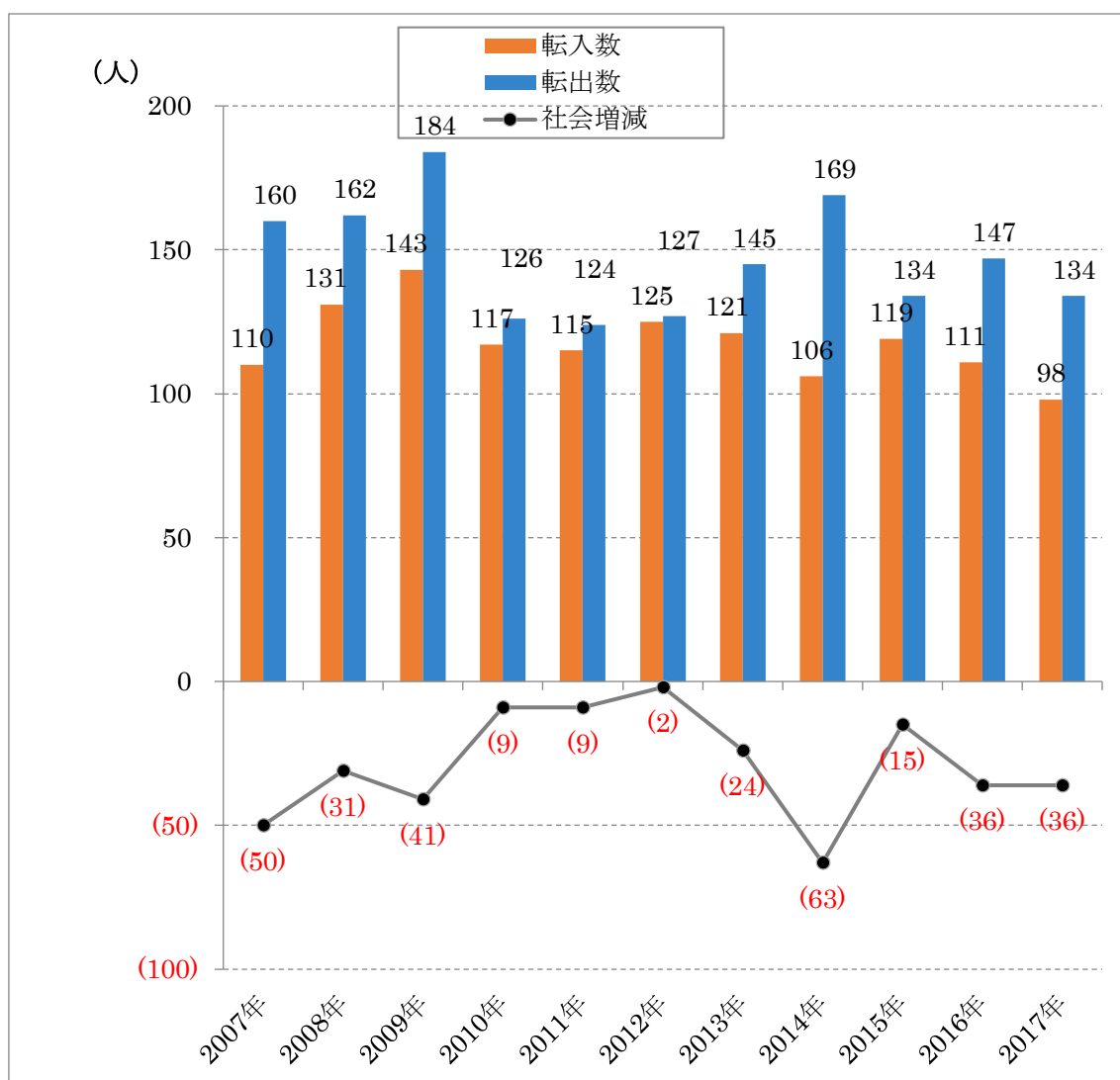
○自然動態（出生数－死亡数）

区 分	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	平均値
出生数	37	37	34	37	30	35	32	37	35	39	33	35
死亡数	89	96	100	118	112	120	119	101	114	108	92	106
自然増減	-52	-59	-66	-81	-82	-85	-87	-64	-79	-69	-59	-71



○社会動態（転入数－転出数）

区 分	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	平均値
転入数	110	131	143	117	115	125	121	106	119	111	98	118
転出数	160	162	184	126	124	127	145	169	134	147	134	147
社会増減	-50	-31	-41	-9	-9	-2	-24	-63	-15	-36	-36	-29



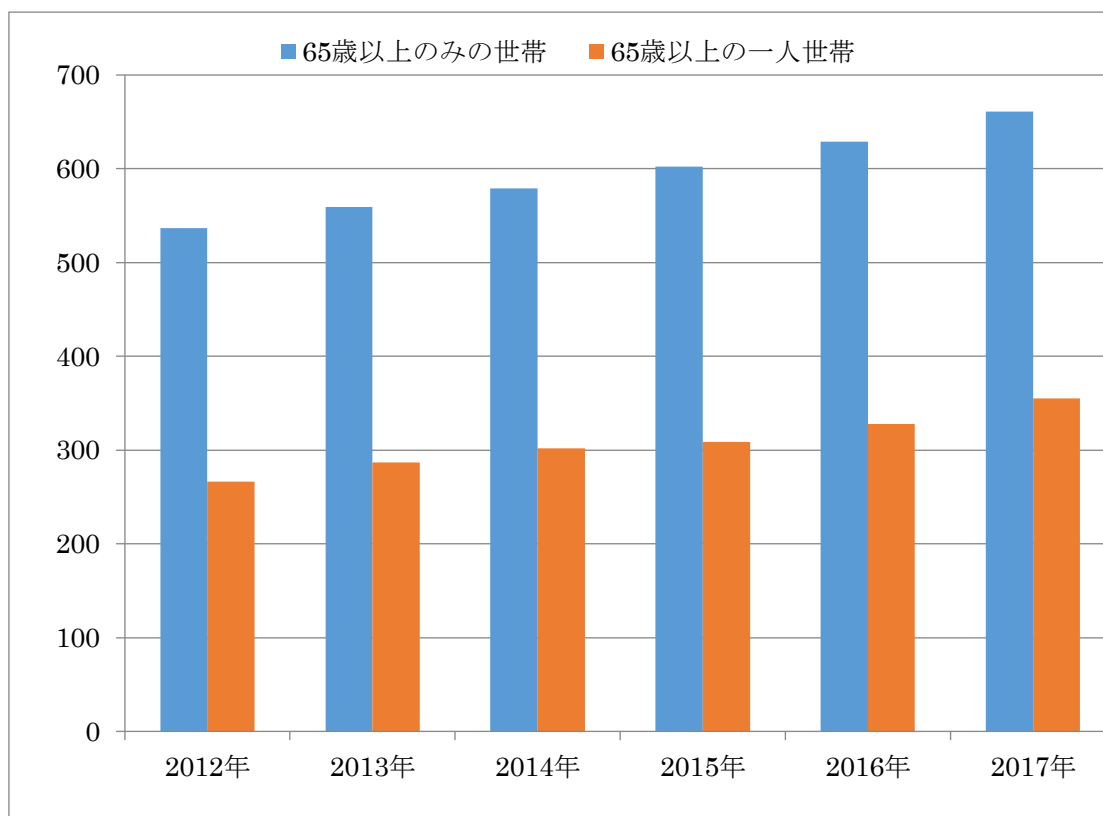
(3) 高齢者世帯・独居高齢世帯の推移

高齢者のみの世帯（65歳以上）・独居高齢世帯（65歳以上）の推移をみると、5年間で高齢者のみの世帯は124世帯6.1%増で、独居高齢世帯は89世帯4.3%増となっております。

高齢者のみの世帯124世帯増のうち独居高齢世帯が89世帯で、独居状態の高齢者が増加していることがわかります。

○高齢者のみの世帯・独居高齢世帯（65歳以上）

区 分	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	増 減
	2012年	2013年	2014年	2015年	2016年	2017年	
65歳以上のみの世帯	537	559	579	602	629	661	124
割 合	25.5%	26.7%	27.7%	28.9%	30.1%	31.6%	6.1%
65歳以上の一人世帯	266	287	302	309	328	355	89
割 合	12.6%	13.7%	14.4%	14.8%	15.7%	17.0%	4.3%
全体の世帯数	2106	2,095	2,093	2,081	2,089	2,093	-13
※のみのうち一人の 割 合	49.5%	51.3%	52.2%	51.3%	52.1%	53.7%	4.2%



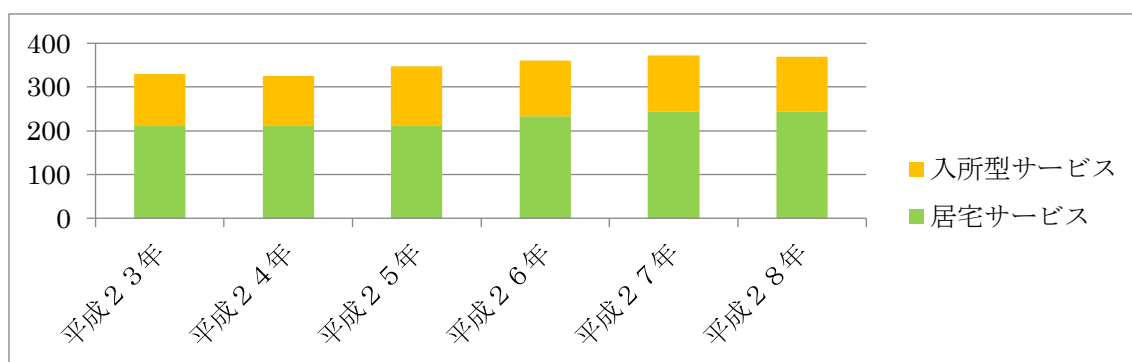
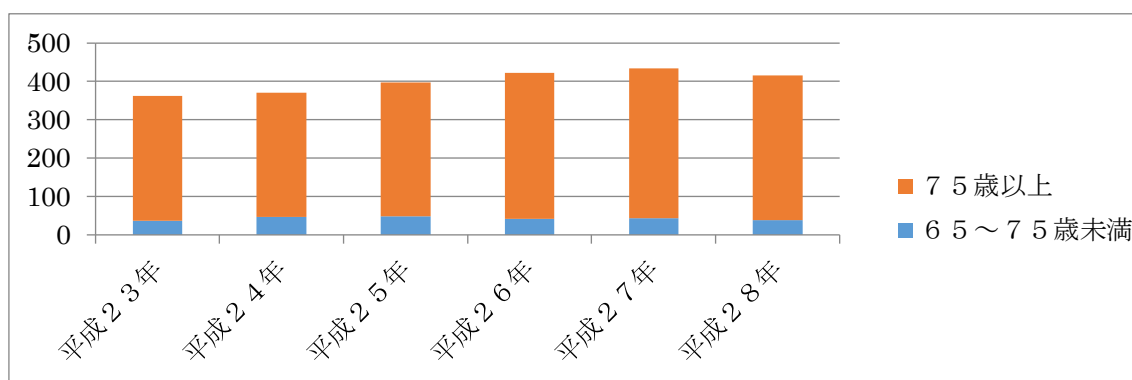
(4) 介護認定者の推移

介護認定者数の平成23年度末～28年度末の5年間の推移をみると、57名増で、その内訳をみると認定者の88.5%が75歳以上の後期高齢者となっております。

また、サービス利用者は39名増となっており、そのうち約8割にあたる31名の方が在宅でのサービスを利用しており、在宅サービス利用者が増加していることがわかります。

○介護認定・サービス利用状況の推移

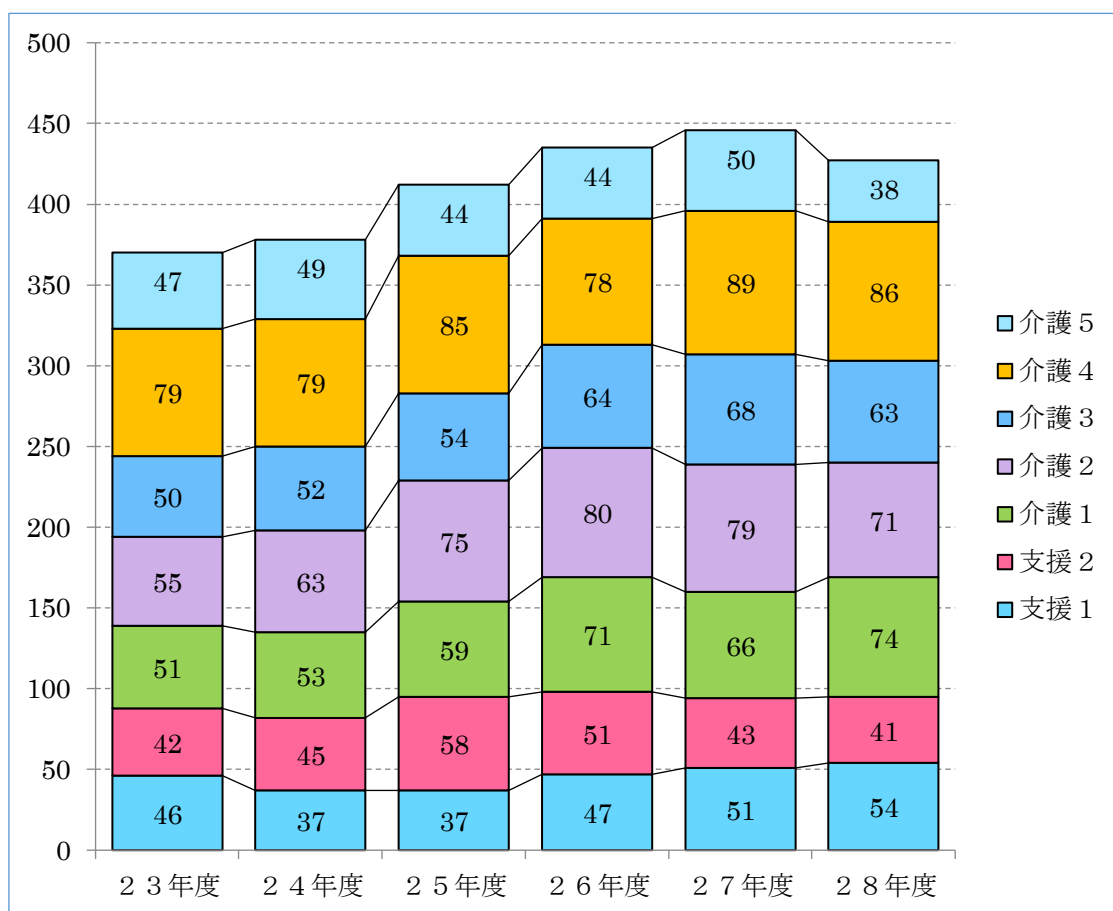
区 分	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
A) 認定者数	370	378	412	435	446	427
65歳未満	8	8	15	12	12	11
65～75未満	37	47	48	42	43	38
B) 75歳以上	325	323	349	381	391	378
75歳以上割合 B÷A	87.8%	85.4%	84.7%	87.6%	87.7%	88.5%
C) サービス受給者数	330	326	348	360	373	369
居宅サービス	213	211	211	233	243	244
入所型サービス	117	115	137	127	130	125
サービス受給率 C÷A	89.2%	86.2%	84.5%	82.8%	83.6%	86.4%



○介護認定区分の動向

平成28年度の認定者の内、比較的軽度と認定された要支援の方95名で、介護が必要と認定された方々332名で、5年間で57名増となっており、認定者の増加傾向とともに、介護を必要とする方々の増加が見られます。

区 分	支援1	支援2	小 計	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	小 計	合 計
23年度	46	42	88	51	55	50	79	47	282	370
24年度	37	45	82	53	63	52	79	49	296	378
25年度	37	58	95	59	75	54	85	44	317	412
26年度	47	51	98	71	80	64	78	44	337	435
27年度	51	43	94	66	79	68	89	50	352	446
28年度	54	41	95	74	71	63	86	38	332	427
28年度－ 23年度	8	-1	7	23	16	13	7	-9	50	57



第3章 計画の基本方向

1. 基本理念

『ともに生き、ともに育み、

安心して暮せる地域社会を目指して』

九戸村社会福祉協議会は、九戸村で生活するすべての村民が自立した生活をするために、村民ひとり1人が手を取り支え合い、子供から高齢者まで安心して生活ができる地域づくりに取り組み「みんなの手でみんなの支え合いで」、『ともに生き、ともに育み、安心して暮らせる地域社会を目指して』を基本理念に地域福祉活動計画を推進してまいります。

2. 基本目標

本計画の基本理念を実現するため、行政や関係機関等とのパートナーシップ及び、地域における九戸村社会福祉協議会の役割を強化・再構築する機会と捉え、全国社会福祉協議会が示した「社協・生活支援活動強化方針」で掲げる事項の中から当社協が取り組む次の目標を掲げ、地域福祉活動計画を推進してまいります。

(1) アウトリーチの徹底

九戸村社会福祉協議会では、ホームヘルプサービスや配食サービス、移動サービス等を展開している一方、ふれあいサロン等の地域福祉活動も進めてきております。

今後、ますます増加すると思われる高齢者世帯等への対応として、様々な生活課題を発見する仕組みづくりが必要と思われます。

こういった現状を踏まえ、生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーターを養成・配置し、地域における生活課題等に対応するため、関係団体・ボランティアと連携し個々の対象者の実情把握も含めアウトリーチによる支援体制の強化に努めてまいります。

又、アンケートの結果を踏まえ、次の事項について事業展開を図ってまいります。

- ◎ 買い物支援活動の展開。
- ◎ スノーバスターズの結成。

(2) 相談・支援体制の強化

現在九戸村社会福祉協議会は、生活福祉資金貸付事業・助けあい金庫、介護保険事業、障がい福祉サービス、居宅介護支援事業所等実施しており、それぞれの現場では公的サービス利用等について様々な相談に応じるとともに、心配ごと相談所では弁護士をお願いし相談に応じていただいております、相談・支援体制についてはある程度は機能している現状にあります。

しかし、超超高齢社会を見据えたとき、視覚・聴覚はもとより判断能力・行動能力等の低下した方々への対応を考えると、現状の相談支援体制の見直し・強化が必要と思われます。

こういった現状を踏まえ、次の事項について体制の強化を図ってまいります。

- ◎ 相談時間や曜日など関係なく、村民が相談のためアクセスしやすい環境を作る為、専用回線をもうけ録音機能を持った電話機を設置し対応していきます。
- ◎ 支援体制の強化を図り、社協として分野横断的かつ、包括的に支援する体制の構築に努めていきます。
- ◎ 各関係機関・団体との連携により、問題解決機能の強化に努めていきます。
- ◎ 必要に応じ、それぞれの家庭への訪問による相談活動を展開できる体制を整えていきます。

(3) 行政とのパートナーシップ

九戸村社会福祉協議会の法人運営に伴う人件費は、従来より行政の補助金によるもの、事業費についても行政からの委託金によるものが多くを占めていること等、行政と密接な関係を保ちながら法人運営・事業展開を行ってきました。

村の福祉計画作成を受け、より以上の地域福祉活動の展開が迫られる中、現状の人的・財政的対応が可能な範囲での活動展開を、職員相互の共通理解を得ながら展開していく必要があります。

こういった現状を踏まえ、社協で取り組み可能な内容を精査し「地域福祉活動計画」に取り入れながら実施計画を行政に示しつつ、より以上のパートナーシップ醸成に努めてまいります。

- ◎ 「地域福祉計画」・「地域福祉活動計画」推進体制の確立に向け、行政の支援を要望していきます。
- ◎ 行政と社協の果たすべき役割について再確認し、連携の強化に努めていきます。
- ◎ 相談窓口の強化とアウトリーチによる支援体制を強化し、行政とも連携し問題解決に努めていきます。

アンケート調査結果

九戸村地域福祉活動計画策定に関するアンケート調査結果

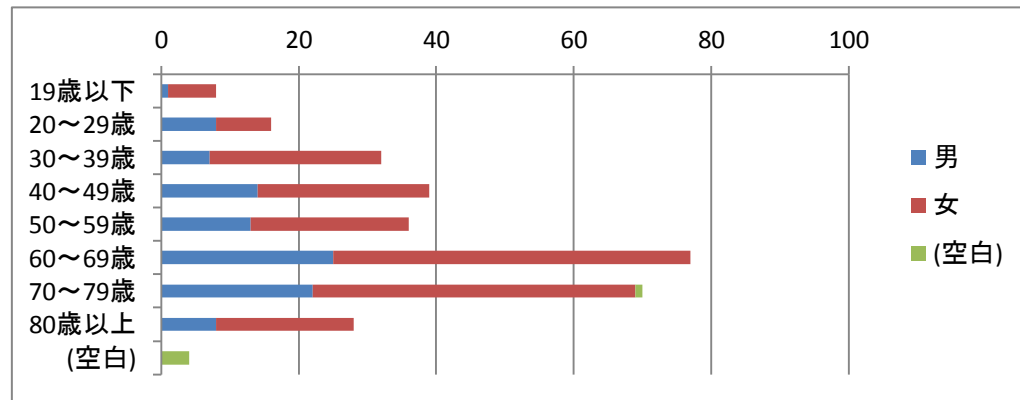
九戸村社会福祉協議会では、村民、関係機関・団体、行政が連携し、地域住民がお互い助け合い、支え合うことのできる仕組みづくりを目指して「九戸村地域福祉活動計画」を策定することになり、その基礎資料として皆様よりアンケート調査を実施いたしました。

村民各年代、様々の業種、様々の世帯構成の方々より協力をいただき、総人口の5%にあたる310名の方からご記入いただきました。

アンケートをお願いした方	324人
回答数	310人
回収率	95.6%

問1 性別

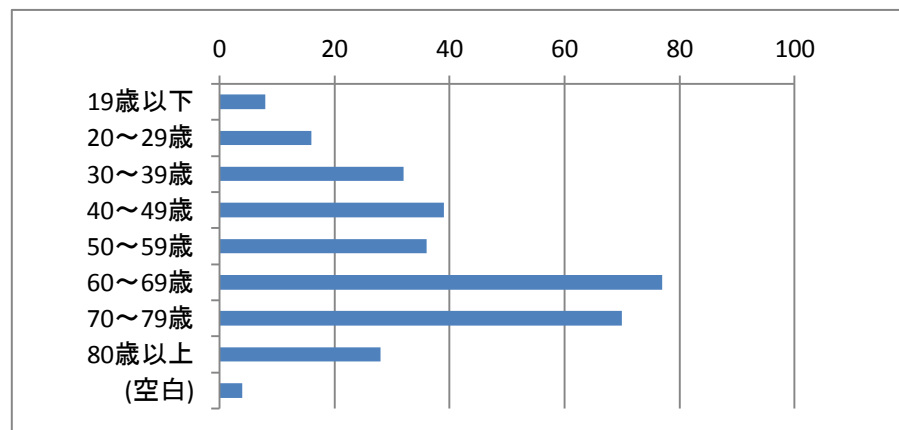
	男	女	(空白)	総計
19歳以下	1	7		8
20～29歳	8	8		16
30～39歳	7	25		32
40～49歳	14	25		39
50～59歳	13	23		36
60～69歳	25	52		77
70～79歳	22	47	1	70
80歳以上	8	20		28
(空白)			4	4
総計	98	207	5	310



アンケートに答えていただいた方々の男女比率（総人口比率）は、男性3.4%・女性6.7%となり19歳未満の方から80歳以上の方まで広範囲の方々に協力いただきました。総人口の5%に当たる総数となりました。

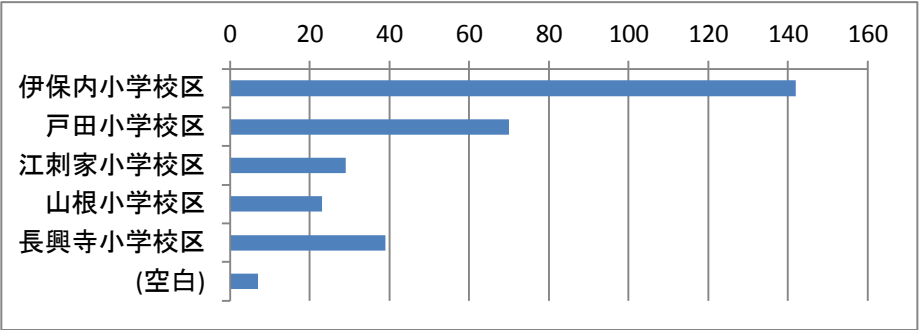
問2 年齢

	人数
19歳以下	8
20～29歳	16
30～39歳	32
40～49歳	39
50～59歳	36
60～69歳	77
70～79歳	70
80歳以上	28
(空白)	4
総計	310



問3 小学校区

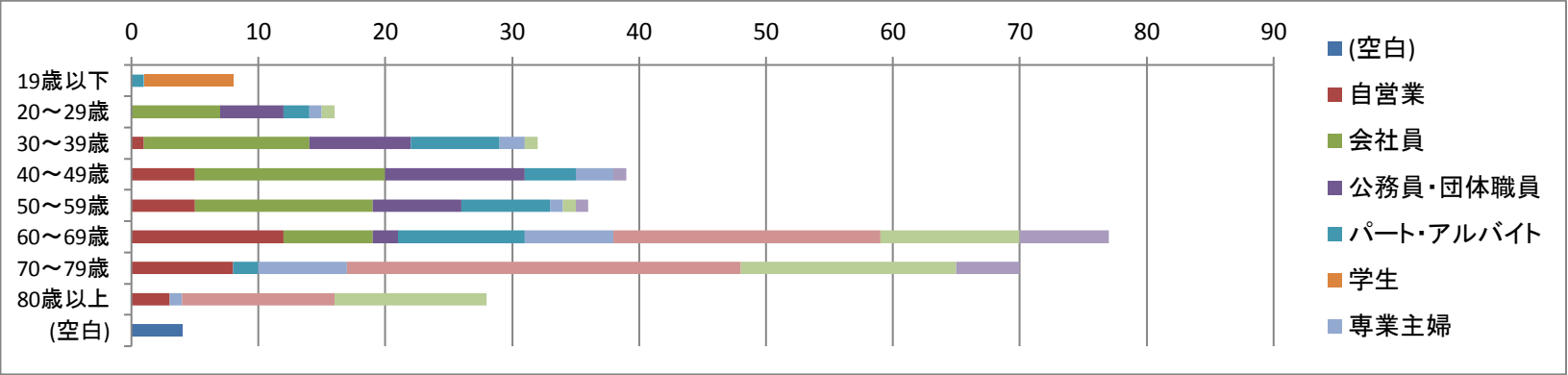
	人数
伊保内小学校区	142
戸田小学校区	70
江刺家小学校区	29
山根小学校区	23
長興寺小学校区	39
(空白)	7
総計	310



アンケートは左の表のとおり、
村内全小学校区の方々にお願い
いたしました。

問4 職業

行ラベル	(空白)	自営業	会社員	公務員・団 体職員	パート・ア ルバイト	学生	専業主婦	年金 生活者	無職	その他	総計
19歳以下					1	7					8
20～29歳			7	5	2		1		1		16
30～39歳		1	13	8	7		2		1		32
40～49歳		5	15	11	4		3			1	39
50～59歳		5	14	7	7		1		1	1	36
60～69歳		12	7	2	10		7	21	11	7	77
70～79歳		8			2		7	31	17	5	70
80歳以上		3					1	12	12		28
(空白)	4										4
総計	4	34	56	33	33	7	22	64	43	14	310
比率(%)	1.3	11.0	18.1	10.6	10.6	2.3	7.1	20.6	13.9	4.5	100.0



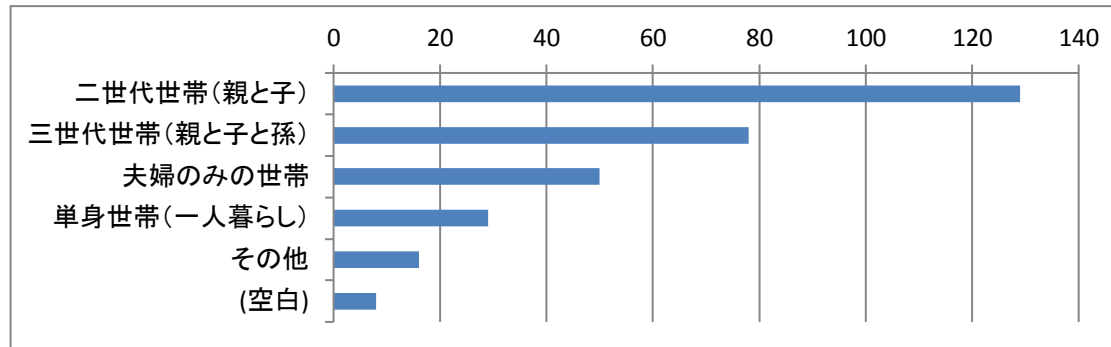
その他

シルバー	1	60～69歳	1
農業	5	60～69歳	1
		70～79歳	4

アンケートは上の表のとおり、自営業から学生・無職
の方まで多業種の方々にお願いいたしました。

問5 家族構成

	人数	比率(%)
二世世代世帯(親と子)	129	41.6
三世世代世帯(親と子と孫)	78	25.2
夫婦のみの世帯	50	16.1
単身世帯(一人暮らし)	29	9.4
その他	16	5.2
(空白)	8	2.6
総計	310	100



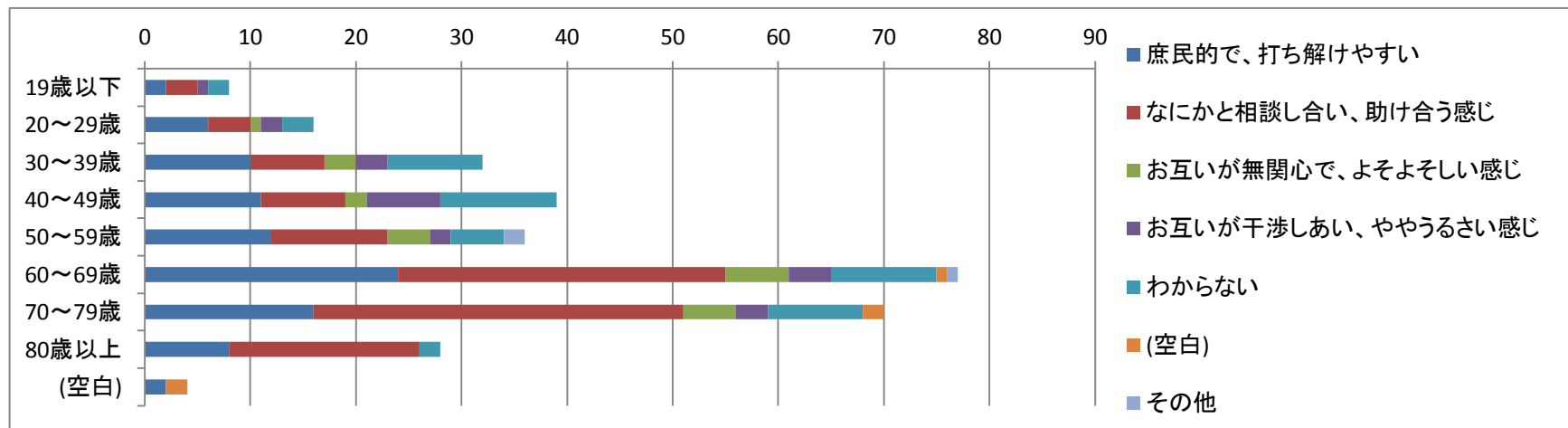
その他

4世代	1	80歳以上	1
4世代	6	30～39歳	2
		60～69歳	2
		70～79歳	2
主人病気でひとり暮らし	1	60～69歳	1
親と孫	1	80歳以上	1
母と二人	1	70～79歳	1
老人と夫婦	1	60～69歳	1

アンケート協力者の家族構成は、二世代・三世代が多くなっておりますが、単身世帯の方々についても協力いただいております。

問6 今住んでいる地域について

行ラベル	庶民的で、打ち解けやすい	なにかと相談し合い、助け合う感じ	お互いが無関心で、よそよそしい感じ	お互いが干渉しあい、ややうるさい感じ	わからない	(空白)	その他	総計
19歳以下	2	3		1	2			8
20～29歳	6	4	1	2	3			16
30～39歳	10	7	3	3	9			32
40～49歳	11	8	2	7	11			39
50～59歳	12	11	4	2	5		2	36
60～69歳	24	31	6	4	10	1	1	77
70～79歳	16	35	5	3	9	2		70
80歳以上	8	18			2			28
(空白)	2					2		4
総計	91	117	21	22	51	5	3	310
比率(%)	29.4	37.7	6.8	7.1	16.5	1.6	1.0	100.0



その他

高齢化、少子化が進み人口減少に伴い地域の活力がなくなっている感じ

1

50～59歳

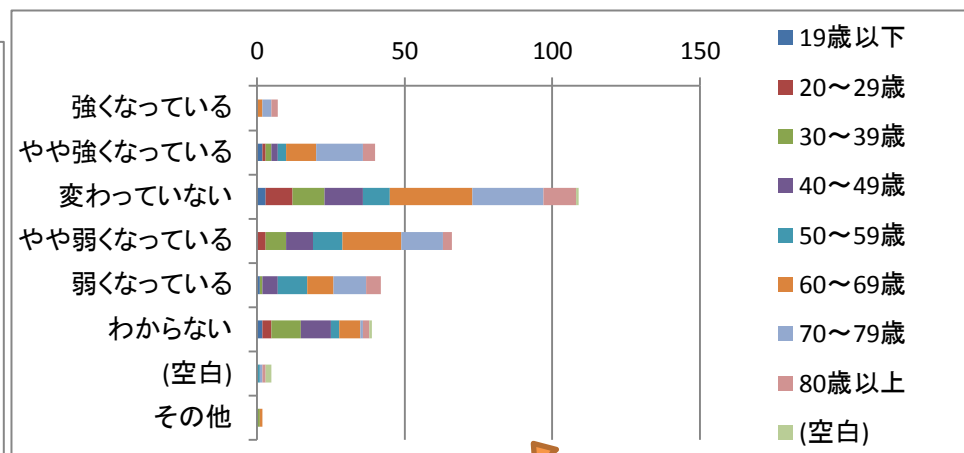
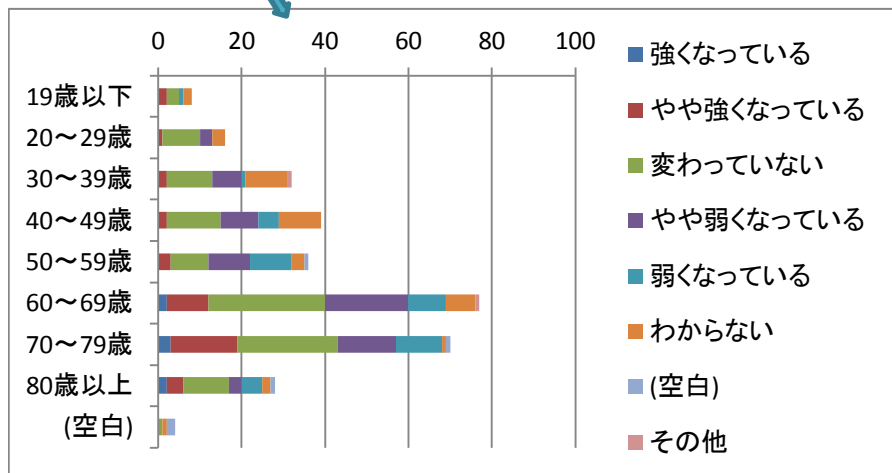
地域とのかかわりについては、「打ち解けやすい。」「相談し合い、助け合う。」と答えた方が67%となり、地域との関係が良好な感じが見受けられました。しかし、その一方で「よそよそしい。干渉しあい、ややうるさい感じ」と答えた方が14%存在することもわかりました。

問7 地域のつながり

行ラベル	強くなっている	やや強くなっている	変わっていない	やや弱くなっている	弱くなっている	わからない	(空白)	その他	総計
19歳以下		2	3		1	2			8
20～29歳		1	9	3		3			16
30～39歳		2	11	7	1	10		1	32
40～49歳		2	13	9	5	10			39
50～59歳		3	9	10	10	3	1		36
60～69歳	2	10	28	20	9	7		1	77
70～79歳	3	16	24	14	11	1	1		70
80歳以上	2	4	11	3	5	2	1		28
(空白)			1			1	2		4
総計	7	40	109	66	42	39	5	2	310
比率(%)	2.3	12.9	35.2	21.3	13.5	12.6	1.6	0.6	100.0

地域のつながりについては、「強くなっている。やや強くなっている。」を合わせると15.2%となっており、「変わっていない。」と答えた35.2%を加えると50.4%となり地域とのつながりも良好な感じが見受けられました。

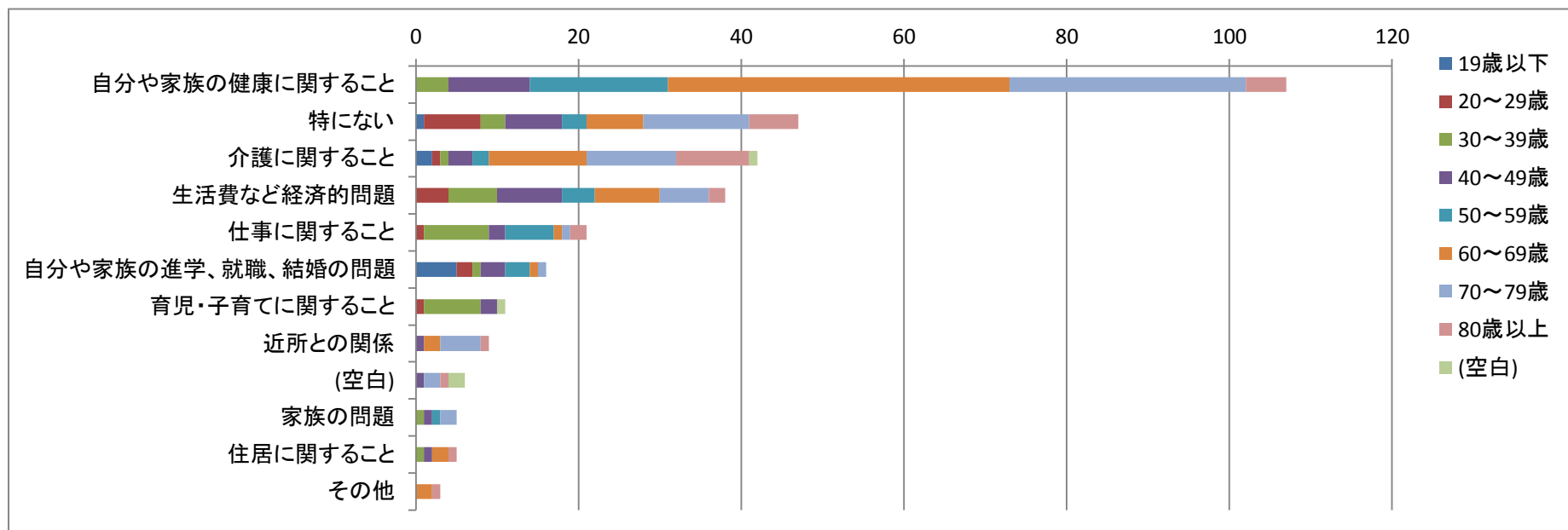
しかし、その一方で、「弱くなっている。やや弱くなっている。」と答えた方が34.8%おり、その回答の年齢層は40歳以上の方々に多くみられました。



行ラベル	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計
強くなっている						2	3	2		7
やや強くなっている		2	1	2	2	3	10	16	4	40
変わっていない		3	9	11	13	9	28	24	11	109
やや弱くなっている			3	7	9	10	20	14	3	66
弱くなっている		1		1	5	10	9	11	5	42
わからない		2	3	10	10	3	7	1	2	39
(空白)					1		1	1	2	5
その他				1		1				2
総計	8	16	32	39	36	77	70	28	4	310
比率(%)	2.6	5.2	10.3	12.6	11.6	24.8	22.6	9.0	1.3	100.0

問8 悩みや不安

行ラベル	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
自分や家族の健康に関すること			4	10	17	42	29	5		107	34.5%
特にない	1	7	3	7	3	7	13	6		47	15.2%
介護に関すること	2	1	1	3	2	12	11	9	1	42	13.5%
生活費など経済的問題		4	6	8	4	8	6	2		38	12.3%
仕事に関すること		1	8	2	6	1	1	2		21	6.8%
自分や家族の進学、就職、結婚の問題	5	2	1	3	3	1	1			16	5.2%
育児・子育てに関すること		1	7	2					1	11	3.5%
近所との関係				1		2	5	1		9	2.9%
(空白)				1			2	1	2	6	1.9%
家族の問題			1	1	1		2			5	1.6%
住居に関すること			1	1		2		1		5	1.6%
その他						2		1		3	1.0%
総計	8	16	32	39	36	77	70	28	4	310	100.0%
比率(%)	2.6	5.2	10.3	12.6	11.6	24.8	22.6	9.0	1.3	100.0	



その他

自分の老後

免許を返したため買い物不便

老後の心配

1 60～69歳

1 80歳以上

1 60～69歳

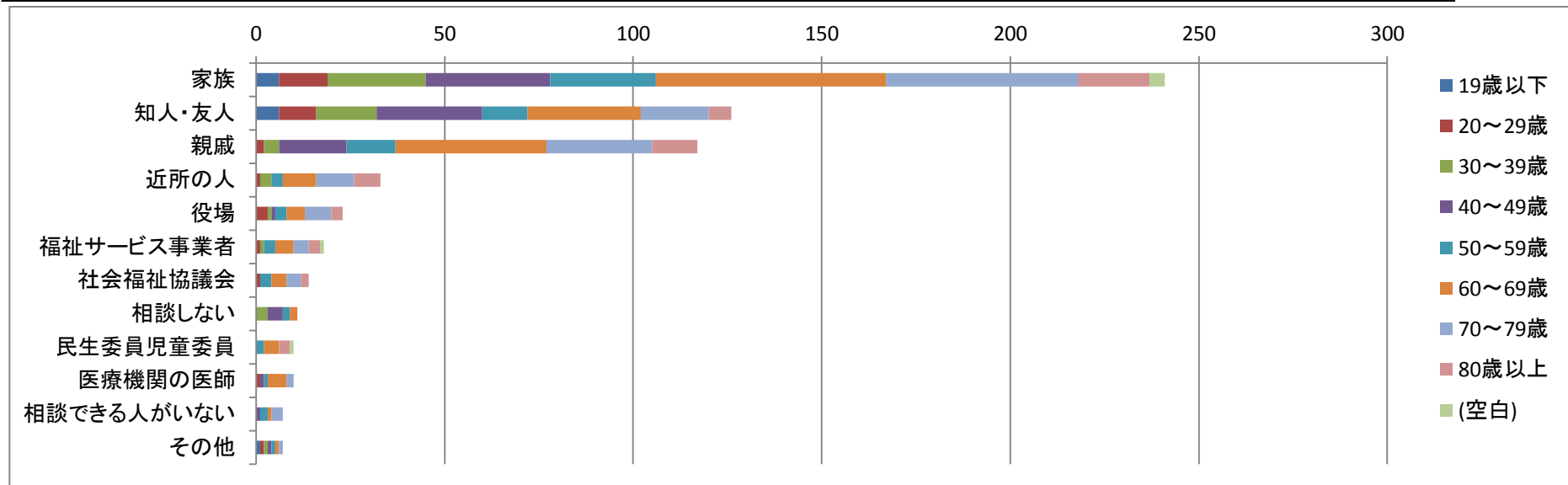
悩みや不安については、「自分や家族の健康」と答えた方34.5%、「介護に関すること」13.5%、次いで「生活費など経済的問題」12.3%となっており、これを合計すると60.3%となりました。

介護に関する不安については、19歳以下の年代から80歳以上の年代まで全ての年代で悩みや不安を抱えている現状がみられました。また、40代を過ぎたころから健康に対する不安を感じ始めている現状が見られました。

問9 誰に相談するのか？

(3つまで選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
家族	6	13	26	33	28	61	51	19	4	241	39.1%
知人・友人	6	10	16	28	12	30	18	6		126	20.4%
親戚		2	4	18	13	40	28	12		117	19.0%
近所の人		1	3		3	9	10	7		33	5.3%
役場		3	1	1	3	5	7	3		23	3.7%
福祉サービス事業者		1	1		3	5	4	3	1	18	2.9%
社会福祉協議会		1			3	4	4	2		14	2.3%
相談しない			3	4	2	2				11	1.8%
民生委員児童委員					2	4		3	1	10	1.6%
医療機関の医師		1		1	1	5	2			10	1.6%
相談できる人がいない				1	2	1	3			7	1.1%
その他	1	1	1	1	1	1	1			7	1.1%
総計	13	33	55	87	73	167	128	55	6	617	100.0%
比率(%)	2.1	5.3	8.9	14.1	11.8	27.1	20.7	8.9	1.0	100.0	



その他

ネットで調べる

1人

20～29歳

兄弟

1人

50～59歳

職場

1人

30～39歳

先生

1人

19歳以下

包括

1人

70～79歳

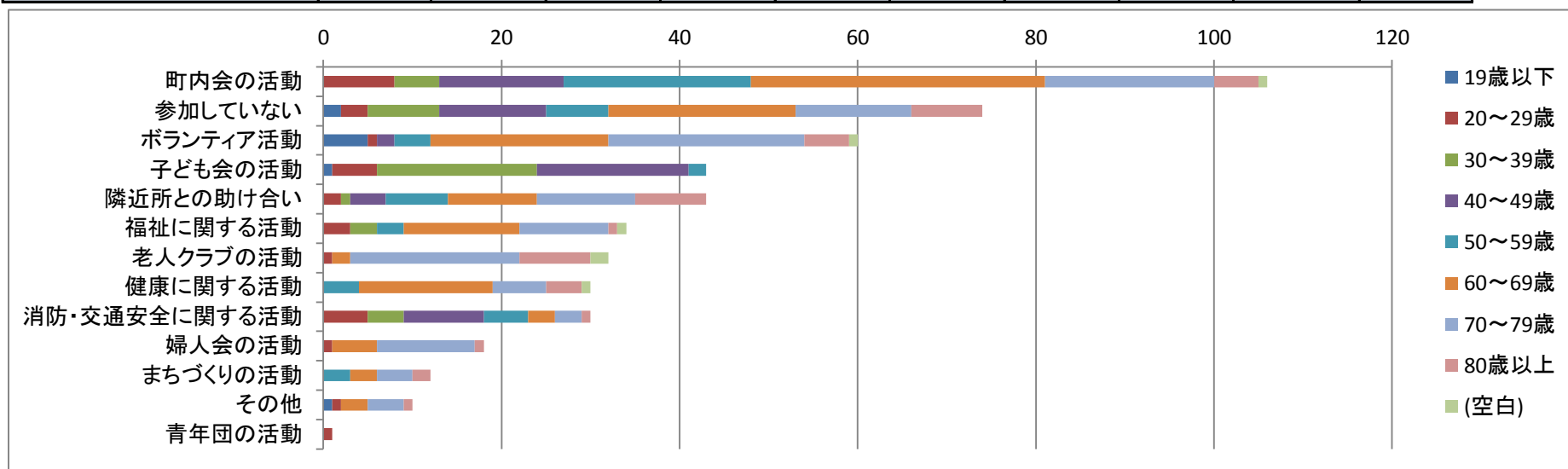
誰に相談するのかについては(3つまで)、「家族」・「知人・友人」と答えた方を合わせると約60%、「親戚」と答えた方も合わせると約80%の方が身の回りの方と相談している現状がみられました。

「相談できる人がいない」と答えた方が1%であり、何らかの相談する相手を持っている現状がみられました。

問10 地域でどのような活動をしているか

(当てはまるもの全て選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
町内会の活動		8	5	14	21	33	19	5	1	106	21.5%
参加していない	2	3	8	12	7	21	13	8		74	15.0%
ボランティア活動	5	1		2	4	20	22	5	1	60	12.2%
子ども会の活動	1	5	18	17	2					43	8.7%
隣近所との助け合い		2	1	4	7	10	11	8		43	8.7%
福祉に関する活動		3	3		3	13	10	1	1	34	6.9%
老人クラブの活動		1				2	19	8	2	32	6.5%
健康に関する活動					4	15	6	4	1	30	6.1%
消防・交通安全に関する活動		5	4	9	5	3	3	1		30	6.1%
婦人会の活動		1				5	11	1		18	3.7%
まちづくりの活動					3	3	4	2		12	2.4%
その他	1	1				3	4	1		10	2.0%
青年団の活動		1								1	0.2%
総計	9	31	39	58	56	128	122	44	6	493	100.0%
比率(%)	1.8	6.3	7.9	11.8	11.4	26.0	24.7	8.9	1.2	100.0	



その他

スポーツ	1	60～69歳
下町ひまわり会	1	70～79歳
郷土芸能	1	20～29歳
郷土芸能伝承	1	60～69歳
財産区	1	80歳以上
小学校運動会	1	19歳以下
部落の介護教室	1	70～79歳

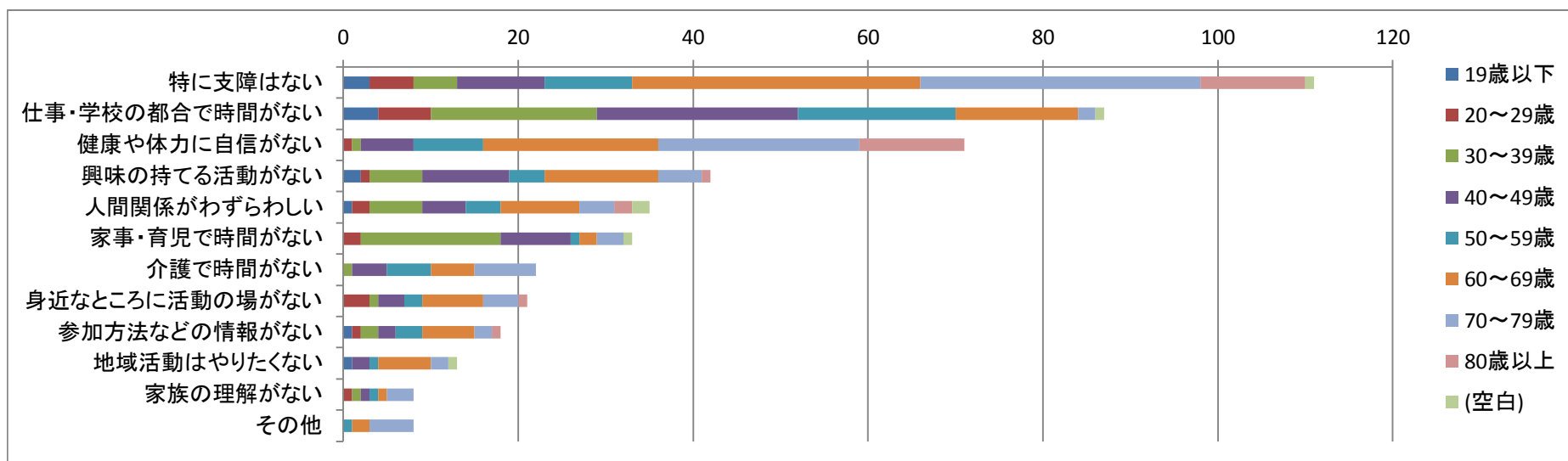
地域での活動という問いに対しては(あてはまるものすべて)、「町内会活動」21.5%、「ボランティア活動」12.2%、次に「子供会活動」・「隣近所との助けあい」8.7%、合計すると51.1%となり、互助、共助の活動がなされていることが見受けられました。

一方「参加していない」と回答した方は15%あり、各年齢階層に及んでいる現状も見受けられました。

問11 地域で活動する際に、支障となること

(3つまで選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
特に支障はない	3	5	5	10	10	33	32	12	1	111	23.7%
仕事・学校の都合で時間がない	4	6	19	23	18	14	2		1	87	18.6%
健康や体力に自信がない		1	1	6	8	20	23	12		71	15.1%
興味の持てる活動がない	2	1	6	10	4	13	5	1		42	9.0%
人間関係がわずらわしい	1	2	6	5	4	9	4	2	2	35	7.5%
家事・育児で時間がない		2	16	8	1	2	3		1	33	7.0%
介護で時間がない			1	4	5	5	7			22	4.7%
身近なところに活動の場がない		3	1	3	2	7	4	1		21	4.5%
参加方法などの情報がない	1	1	2	2	3	6	2	1		18	3.8%
地域活動はやりたくない	1			2	1	6	2		1	13	2.8%
家族の理解がない		1	1	1	1	1	3			8	1.7%
その他					1	2	5			8	1.7%
総計	12	22	58	74	58	118	92	29	6	469	100.0%
比率(%)	2.6	4.7	12.4	15.8	12.4	25.2	19.6	6.2	1.3	100.0	



その他

何とか時間を見つけている
高齢により人が減ってきた

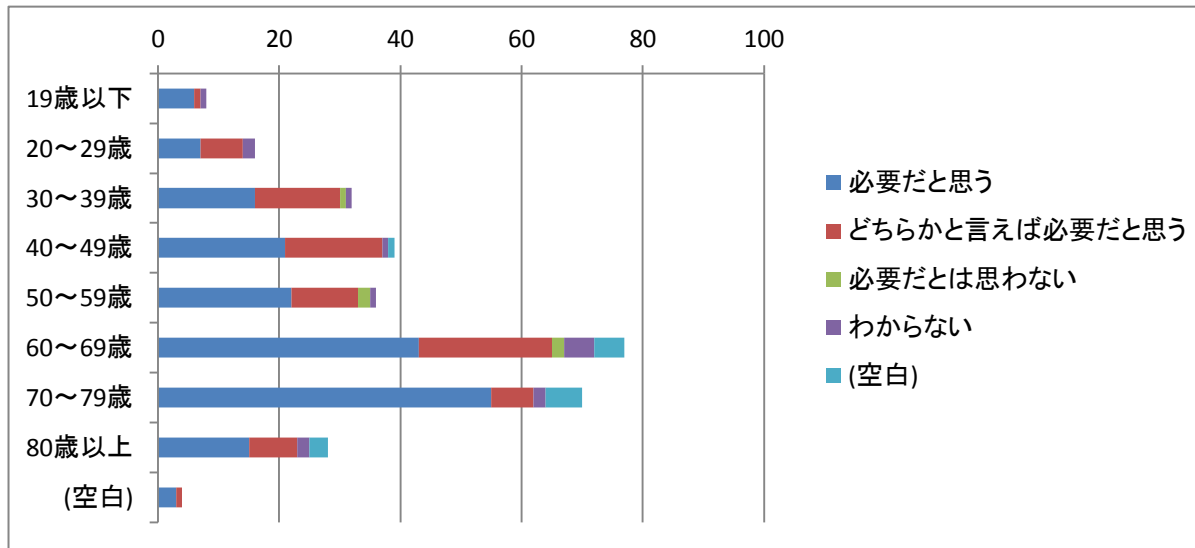
1 60～69歳
1 70～79歳

地域活動で支障となる事という問いについての回答は(3つまで)、「仕事・学校の都合」18.6%、「健康や体力に自身がない」15.1%、「興味を持てる活動がない」9.0%、「人間関係」7.5%で合計すると50.1%となり、次いで「家事・育児」7.0%、「介護」4.7%となっております。

一方「興味を持てる活動がない」9%、「身近な活動の場がない」4.5%、「情報がない」3.8%、「やりたくない」2.8%となり合計すると20.1%となっており、活動に消極的な方々も多数あることが見受けられました。

問12 地域住民が自主的に、お互いに支えあい、助け合う関係

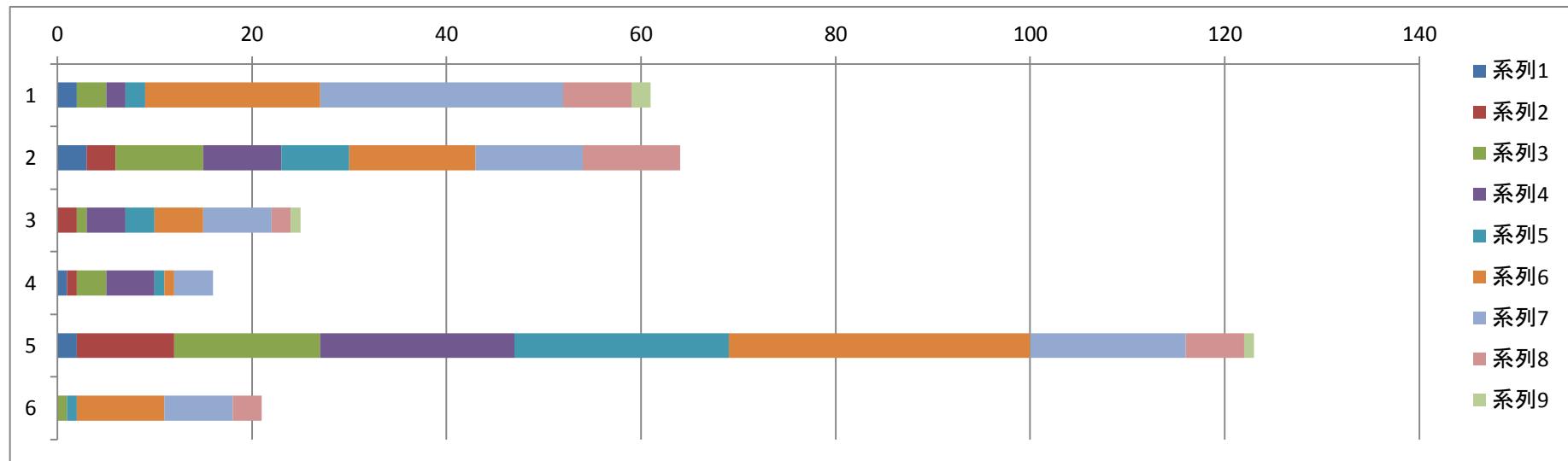
行ラベル	必要だと思う	どちらかと言えば必要だと思う	必要だとは思わない	わからない	(空白)	総計
19歳以下	6	1		1		8
20～29歳	7	7		2		16
30～39歳	16	14	1	1		32
40～49歳	21	16		1	1	39
50～59歳	22	11	2	1		36
60～69歳	43	22	2	5	5	77
70～79歳	55	7		2	6	70
80歳以上	15	8		2	3	28
(空白)	3	1				4
総計	188	87	5	15	15	310
比率(%)	60.6	28.1	1.6	4.8	4.8	100.0



地域住民が自主的に、お互いに支えあい、助け合う関係についての問いには、「必要だと思う」60.6%、「どちらかと言えば必要」28.1%、合計すると約9割の方が自主的助けあいの必要性を感じていることが見受けられました。

問13 地域住民による支援や協力を受けたいと思いますか。

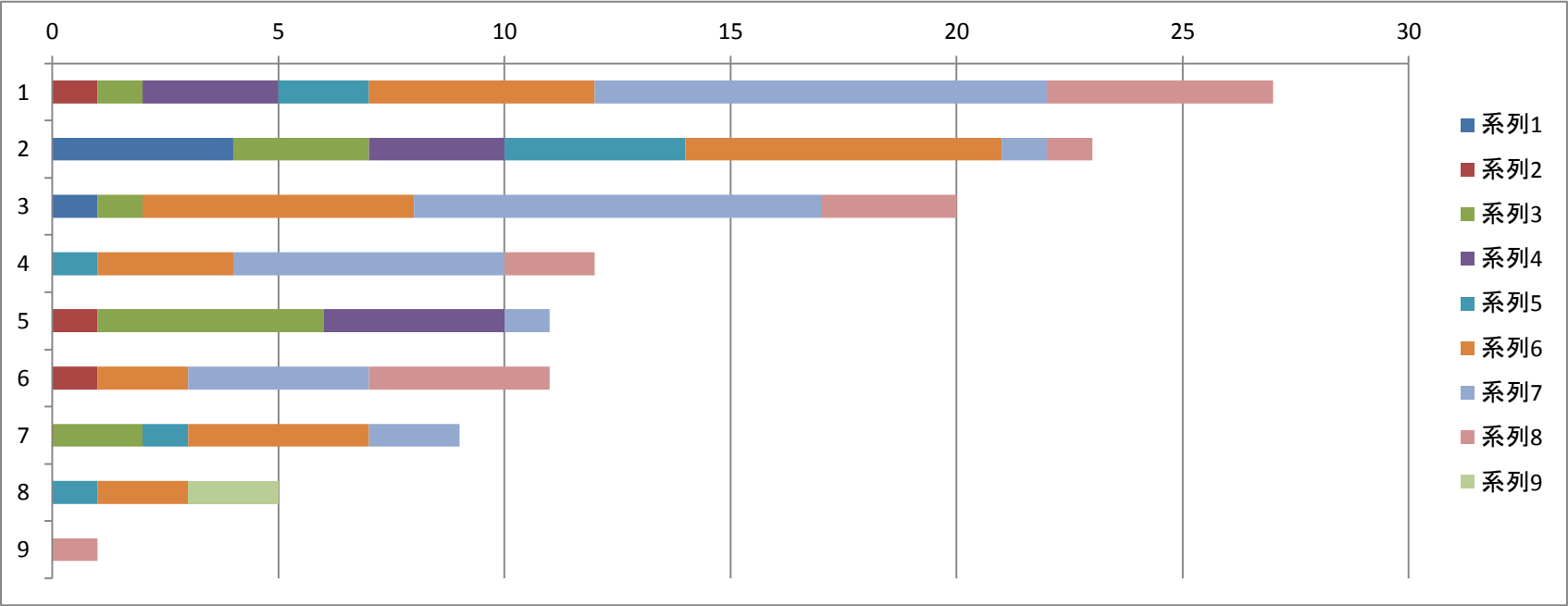
	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	区分計	比率
受けたい	2		3	2	2	18	25	7	2	61	125	40.3%
どちらかと言えば受けたい	3	3	9	8	7	13	11	10		64		
どちらかと言えば受けたくない		2	1	4	3	5	7	2	1	25	41	13.2%
受けたくない	1	1	3	5	1	1	4			16		
どちらともいえない	2	10	15	20	22	31	16	6	1	123	123	39.7%
(空白)			1		1	9	7	3		21	21	6.8%
総計	8	16	32	39	36	77	70	28	4	310	310	100.0%



地域住民による支援や協力を受けたいと思いますかという問いに対しては、「受けたい」19.7%、「どちらかと言えば受けたい」20.6%を合計すると40.3%となり、「どちらともいえない」が39.7%あり、これを「状況によっては受けたい」と解釈すれば、約8割の方が支援や協力をを受けたい方々であることが見受けられました。

問14 あなたが受けたいと思う支援や協力は何ですか。

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率
除雪の手伝い		1	1	3	2	5	10	5		27	21.6%
災害時の避難支援・安否確認	4		3	3	4	7	1	1		23	18.4%
話し相手	1		1			6	9	3		20	16.0%
相談相手					1	3	6	2		12	9.6%
子どもの登下校時の見守り		1	5	4			1			11	8.8%
外出支援		1				2	4	4		11	8.8%
あいさつや安否確認などの			2		1	4	2			9	7.2%
その他					1	2			2	5	4.0%
新聞や本の代読								1		1	0.8%
(空白)						2	3	1		6	4.8%
総計	5	3	12	10	9	31	36	17	2	125	100.0%



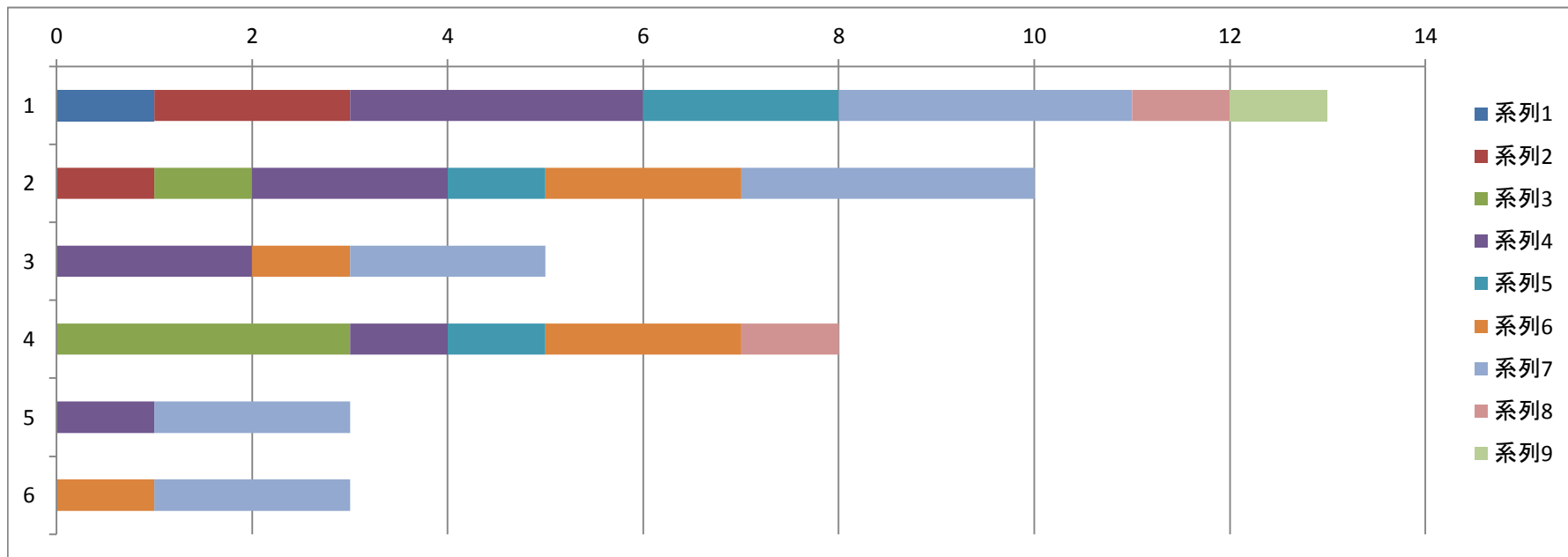
その他
協力して活動すること
高齢者の見守り
福祉に対する理解

1 60～69歳
1 50～59歳
1 60～69歳

受けたい支援、という問いの回答は(125名)、「除雪の手伝い」21.6%、「災害時の安否確認」18.4%、「話し相手」16.0%、「相談相手」9.6%、「登下校の見守り」8.8%、「外出支援」8.8%、「安否確認」7.2%と続いており、高齢者のみの世帯・後期高齢者世帯が増加傾向にある現在、益々こういった支援を望む方々が増えるものと思われます。

問15 受けたくないと思う理由は

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率
プライバシーが守られているかどうか不安だから	1	2		3	2		3	1	1	12	29.3%
地域の人に気をつかうことが嫌だから		1	1	2	1	2	3			10	24.4%
他人の世話にはなりたくないから				2		1	2			5	12.2%
必要性を感じないから			3	1	1	2		1		8	19.5%
その他				1			2			3	7.3%
(空白)						1	2			3	7.3%
総計	1	3	4	9	4	6	12	2	1	41	100.0%



その他

子供の登校時支えて頂いており、ありがたい。その一方で、もし自身が何らかの理由で出来ないことを一方的に個人に対してやってもらうのは、負い目・負担に感じると思う。そのようなサービス(事業)がより利用しやすい形で提供されたらと思う。

1 40～49歳

地域からの支援を受けたくない理由についての回答は、41名の方からその理由について回答をいただきました。

「プライバシーの不安」29.3%、「気を使いたくない」24.4%、「必要性を感じない」19.5%、「他の世話になりたくない」12.2%、「その他」7.3%という結果でした。

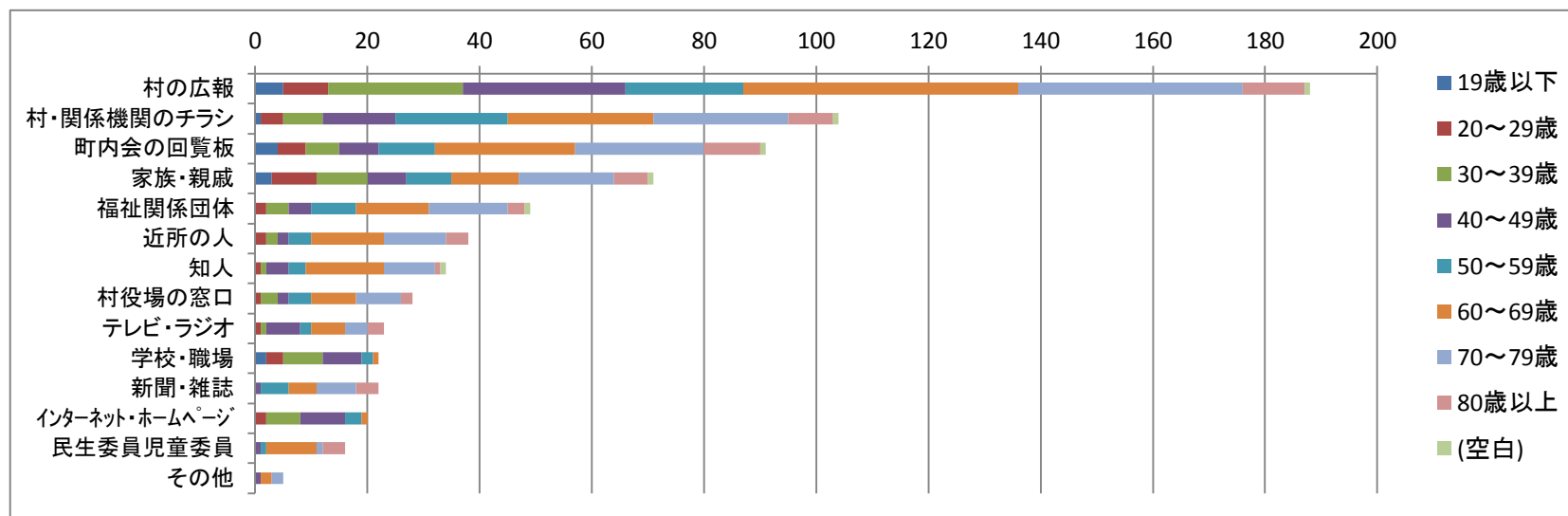
プライバシーや気遣いという理由で支援を受けたくない方々が多数見受けられました。

問16 福祉サービスの情報をどこから入手していますか。

(3つまで選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
村の広報	5	8	24	29	21	49	40	11	1	188	26.4
村・関係機関のチラシ	1	4	7	13	20	26	24	8	1	104	14.6
町内会の回覧板	4	5	6	7	10	25	23	10	1	91	12.8
家族・親戚	3	8	9	7	8	12	17	6	1	71	10.0
福祉関係団体		2	4	4	8	13	14	3	1	49	6.9
近所の人		2	2	2	4	13	11	4		38	5.3
知人		1	1	4	3	14	9	1	1	34	4.8
村役場の窓口		1	3	2	4	8	8	2		28	3.9
テレビ・ラジオ		1	1	6	2	6	4	3		23	3.2
学校・職場	2	3	7	7	2	1				22	3.1
新聞・雑誌				1	5	5	7	4		22	3.1
インターネット・ホームページ		2	6	8	3	1				20	2.8
民生委員児童委員				1	1	9	1	4		16	2.3
その他				1		2	2			5	0.7

711 100.0



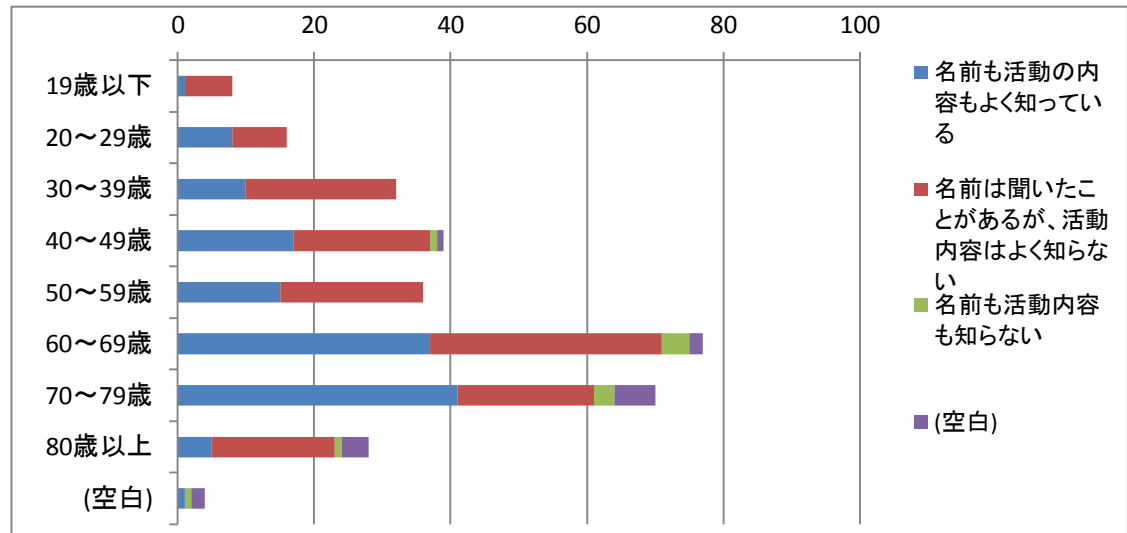
その他 会社

1 40～49歳

福祉サービスの情報をどこから入手という回答(3つまで)には、「村の広報」26.4%、「関係機関のチラシ」14.6%、「回覧板」12.8%と紙媒体が53.8%でした。
「家族・親戚」10.0%、「福祉関係団体」6.9%、「近所の人」5.3%、「知人」4.8%と言語等での入手が27.0%であり、広報・チラシ等の情報発信の重要性が見られました。

問17 「九戸村社会福祉協議会」を知っていますか。

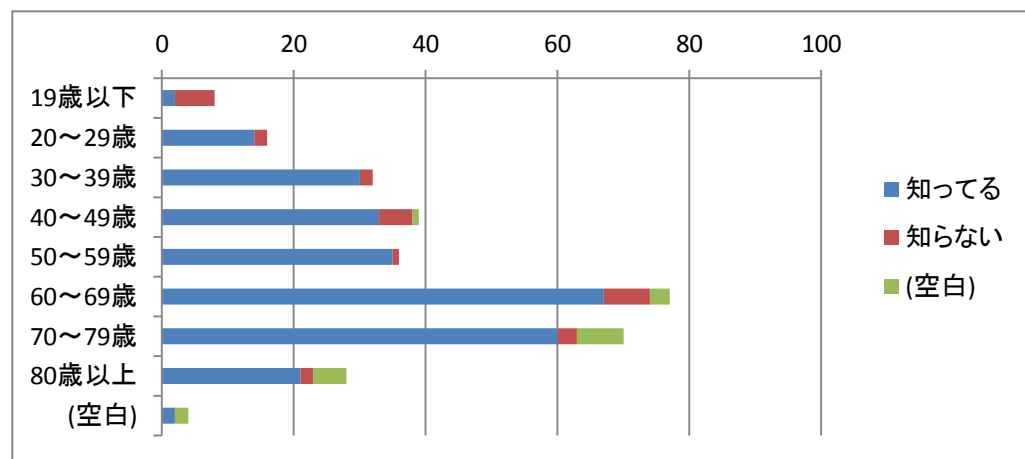
	名前も活動の内容もよく知っている	名前は聞いたことがあるが、活動内容はよく知らない	名前も活動内容も知らない	(空白)	総計
19歳以下	1	7			8
20～29歳	8	8			16
30～39歳	10	22			32
40～49歳	17	20	1	1	39
50～59歳	15	21			36
60～69歳	37	34	4	2	77
70～79歳	41	20	3	6	70
80歳以上	5	18	1	4	28
(空白)	1		1	2	4
総計	135	150	10	15	310
比率(%)	43.5	48.4	3.2	4.8	100.0



九戸村社会福祉協議会を知っていますか？の問いには、「名前は聞いたことがあるが活動内容はよくわからない」と答えた方が約半数の48.4%、「名前も活動内容もよく知っている」43.5%、で合計すると91.9%で、九戸村社会福祉協議会の存在を認識している方が9割以上見られました。
「名前も活動も知らない」と答えた方が3.2%おり、60代70代の方に多く見られました。

問18 広報誌「社協だより」を知っていますか。

行ラベル	知ってる	知らない	(空白)	総計
19歳以下	2	6		8
20～29歳	14	2		16
30～39歳	30	2		32
40～49歳	33	5	1	39
50～59歳	35	1		36
60～69歳	67	7	3	77
70～79歳	60	3	7	70
80歳以上	21	2	5	28
(空白)	2		2	4
総計	264	28	18	310
比率(%)	85.2	9.0	5.8	100.0



社協だよりを知っているかの問いに対しては、「知っている」85.2%。「知らない」・「無回答」を合わせると14.8%という結果でした。

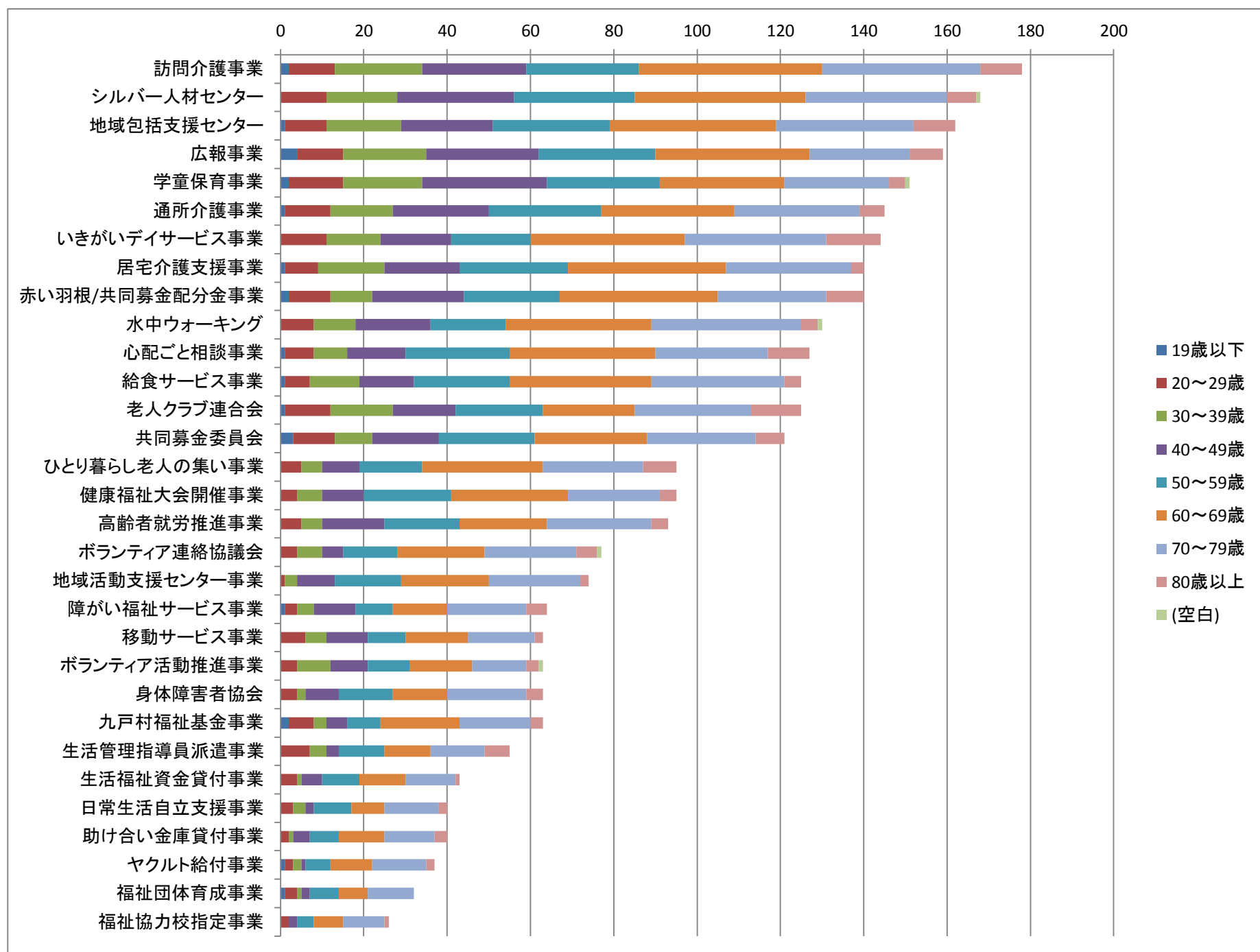
問19 知っている事業又は活動は？

(当てはまるもの全て選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
訪問介護事業	2	11	21	25	27	44	38	10		178	5.9
シルバー人材センター		11	17	28	29	41	34	7	1	168	5.5
地域包括支援センター	1	10	18	22	28	40	33	10		162	5.3
広報事業	4	11	20	27	28	37	24	8		159	5.2
学童保育事業	2	13	19	30	27	30	25	4	1	151	5.0
通所介護事業	1	11	15	23	27	32	30	6		145	4.8
いきがいデイサービス事業		11	13	17	19	37	34	13		144	4.7
居宅介護支援事業	1	8	16	18	26	38	30	3		140	4.6
赤い羽根/共同募金配分金事業	2	10	10	22	23	38	26	9		140	4.6
水中ウォーキング		8	10	18	18	35	36	4	1	130	4.3
心配ごと相談事業	1	7	8	14	25	35	27	10		127	4.2
給食サービス事業	1	6	12	13	23	34	32	4		125	4.1
老人クラブ連合会	1	11	15	15	21	22	28	12		125	4.1
共同募金委員会	3	10	9	16	23	27	26	7		121	4.0
ひとり暮らし老人の集い事業		5	5	9	15	29	24	8		95	3.1
健康福祉大会開催事業		4	6	10	21	28	22	4		95	3.1
高齢者就労推進事業		5	5	15	18	21	25	4		93	3.1
ボランティア連絡協議会		4	6	5	13	21	22	5	1	77	2.5
地域活動支援センター事業		1	3	9	16	21	22	2		74	2.4
障がい福祉サービス事業	1	3	4	10	9	13	19	5		64	2.1
移動サービス事業		6	5	10	9	15	16	2		63	2.1
ボランティア活動推進事業		4	8	9	10	15	13	3	1	63	2.1
身体障害者協会		4	2	8	13	13	19	4		63	2.1
九戸村福祉基金事業	2	6	3	5	8	19	17	3		63	2.1
生活管理指導員派遣事業		7	4	3	11	11	13	6		55	1.8
生活福祉資金貸付事業		4	1	5	9	11	12	1		43	1.4
日常生活自立支援事業		3	3	2	9	8	13	2		40	1.3
助け合い金庫貸付事業		2	1	4	7	11	12	3		40	1.3
ヤクルト給付事業	1	2	2	1	6	10	13	2		37	1.2
福祉団体育成事業	1	3	1	2	7	7	11			32	1.1
福祉協力校指定事業		2		2	4	7	10	1		26	0.9

3038 100.0

九戸村社会福祉協議会の事業を知っていますかという問い(知っているもの全て)には、310名の方より3, 038 の回答があり、平均すると一人当たり10の事業については知っていることとなり、特に認知度が高い事業は、「訪問介護」「シルバー人材センター」「包括支援センター」「広報事業」「学童保育事業」という内容でした。

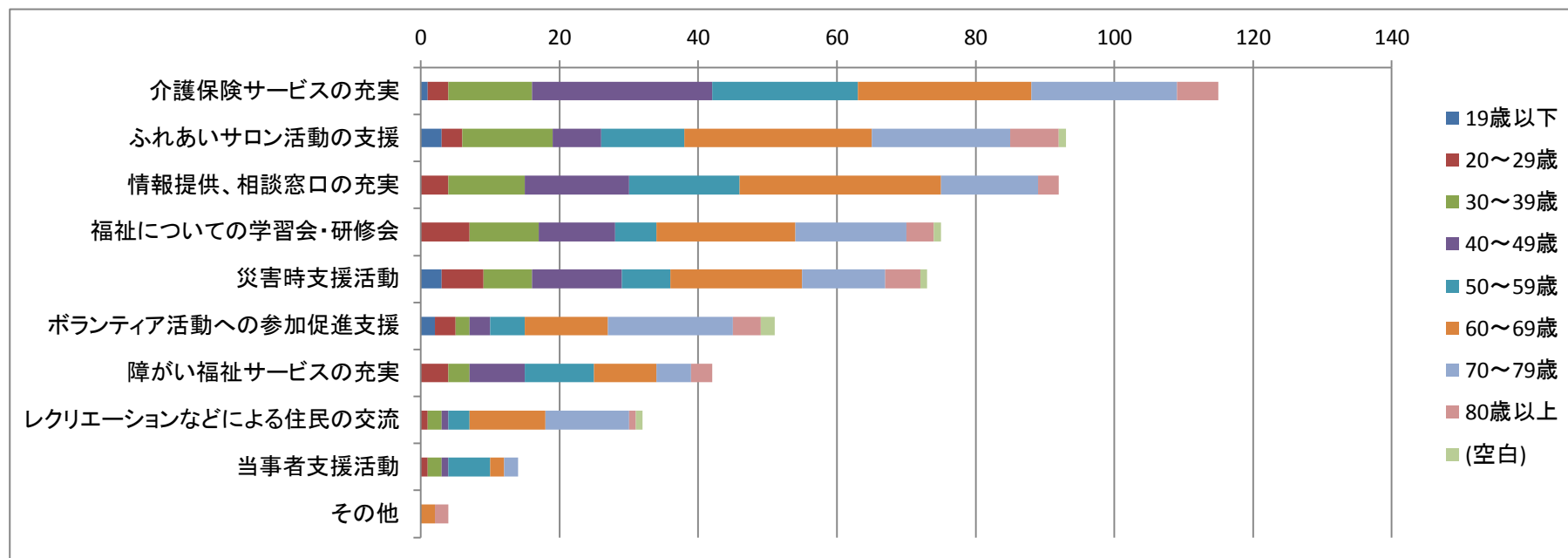


問20 今後充実してほしい活動・支援

(当てはまるもの全て選択)

	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳以上	(空白)	総計	比率(%)
介護保険サービスの充実	1	3	12	26	21	25	21	6		115	19.5
ふれあいサロン活動の支援	3	3	13	7	12	27	20	7	1	93	15.7
情報提供、相談窓口の充実		4	11	15	16	29	14	3		92	15.6
福祉についての学習会・研修会		7	10	11	6	20	16	4	1	75	12.7
災害時支援活動	3	6	7	13	7	19	12	5	1	73	12.4
ボランティア活動への参加促進支援	2	3	2	3	5	12	18	4	2	51	8.6
障がい福祉サービスの充実		4	3	8	10	9	5	3		42	7.1
レクリエーションなどによる住民の交流		1	2	1	3	11	12	1	1	32	5.4
当事者支援活動		1	2	1	6	2	2			14	2.4
その他						2		2		4	0.7

591 100.0



その他

ひとり暮らし老人の集い事業の充実
買い物

1 60～69歳
1 80歳以上

今後充実してほしい活動・支援という問い(あてはまるもの全て)については、「介護保険サービスの充実」19.5%、「ふれあいサロン活動(高齢者・子育て等)の支援」15.7%、「情報提供、相談窓口の充実」15.6%、「福祉についての学習会・研修会」12.7%、「災害時支援活動」12.4%となっておりこれらを合わせると75.9%となり、介護保険事業の充実、高齢者・子育て支援、災害時支援等の事業への取り組みの充実が望まれていることが見られました。

問21 社会福祉協議会の活動や地域福祉のあり方などについて、自由に意見

19歳以下	3	社協だよりは毎回見させてもらってます。今後も色々な活動の場が見られるので継続して欲しいです。	1
		できる限り充実させるべきだと思う	1
		あなた方に言ってもダメだと思うけど、若者の流失は止まらないと思うし、ジジババはどんどん増えるし正直村でどうこうするのは将来を見たときあまり良くない。今はやれてるけど、あなた方が声高く叫んでも前述したように僕たち若者の元にはほとんど届かない。九戸で生きるということが頭にないし、興味を持つものも少ないから。広報も親や祖父などに勧められて初めて見るという状態。これでは村のことを何も知らないのは当然。だからと言って『地域活動の一環』とか言われてお金も出ない仕事をやらせて地域に触れてもらおうとするのもダメ。3、40以上の人が勝手に『九戸の未来を〜』となげいてるような気がする。とりあえず、村長はよ合併してくれ。	1
30～39歳	1	未就園児が活動できる場を充実させて頂きたいです。	1
40～49歳	2	社協だよりの充実・募金活動のあり方について(不透明さ、お金ではない福祉の形)	1
		幅広い活動を改めて実感しました。今後も安心して生活できるまちづくりのためよろしくお願いします	1
50～59歳	3	いつもカラーで頻繁に印刷していて予算があるなと思う。村民からの寄付ありきで予算を組んで欲しくない。自分はまだ高齢者でもなく、子供もいない中高年ですが、全く活動内容が自分自身に関係してきません。自分が高齢者になった時には色々お世話になりたいと思います。	1
		地域包括支援センターの充実が急務ではないか？各家庭を訪問できる体制を造る必要があると思う。	1
		社会福祉協議会を機軸とした地域福祉活動を今後より一層充実させていただきたいと思います。	1
60～69歳	3	いろいろ計画・企画していて参加して役立っています。	1
		事業活動内容がわからないので情報が欲しい	1
		近くに商店がなくなって、日用品が買えなくて不便です。例えば、買い物に出かけたとしても買った物を家に持って帰るには重くなるので分量が限られます。雨降りに当たったらまた大変です。	1
70～79歳	8	災害時支援活動を村をあげて実施してもいいのでは	1
		福祉関係に携わる人は、相手の気持ちを最優先に考え行動することを願う。	1
		「福祉センターの日」「福祉センター祭り」のような、公開や利用の仕方の説明会、相談コーナーなど色々な体験やバザーなどをやるというイベントはどうでしょうか。プール、カラオケルーム、トレーニングルームなどもっと利用が増えるのではないのでしょうか？	1
		ボケ防止の運動として体育・カラオケ等を取り入れて仲間作り健康向上になることをやっていくと良いと思います。	1
		このようなアンケート等木村会長に心から感謝申し上げます。今私は困っているのは、ある団体の会長の時、誤魔化す又は金を取るかもとか、やってない事でその問題を解決しないで人を傷つけ、嘲笑い田舎特有の問題が自分の身にかかるとは思っていませんでした。この村に居る方は優れて残ったと思っていました。しかし残念です。自分は精一杯まだ人の役に立ちたいと思っています。でも解決出来るのであればそれをやり遂げてからです。	1
		いつもお世話になりありがとうございます。今後は今までとは違ったお世話になる可能性があると思うので宜しくお願い致します。	1
		事業が多くそれに伴い事務的な処理等を職員の方々のご苦勞を感じています。くれぐれも健康に留意し、さらなる前身をと思いながら記入終了といたします。	1
		高齢者が集まってお話ししたり、体を動かせる機会を設けて欲しい	1
80歳以上	2	他地域の協議会の活動を勉強したらどうか	1
		村の社会福祉の活動は他の町村と比べて、細やかな計画が立てられ実施されていると思います。人口の少ない小さな村ですが今までどおり頑張ってもらいたいです。	1
年齢未記入	2	このような形でいつまでも続けて欲しい	2

策 定 経 過

年月日	事 項	主な内容	参加者等
平成 29 年 2 月 13 日	第 1 回プロジェクト会議	・メンバーの合意形成 ・地域福祉活動計画策定研修会参加報告 ・今後の作業の進め方等について	社協職員 5 名
平成 29 年 2 月 27 日	地域福祉活動計画策定委員会設置要綱の制定	平成 29 年度第 6 回理事会にて要綱制定	社協役員 社協職員
平成 29 年 5 月 9 日	第 2 回プロジェクト会議	アンケートの内容について	社協職員 5 名
平成 29 年 6 月～7 月	アンケート調査の実施	全職員による調査	
平成 29 年 9 月～10 月	アンケート集計		
平成 29 年 12 月	アンケート結果報告	社協だよりNo.57 12 月号掲載、ホームページ掲載	
平成 30 年 1 月～	アンケート結果の評価作業		
平成 30 年 6 月 15 日	第 3 回プロジェクト会議	策定状況の確認、今後の作業の進め方	社協職員 5 名
平成 30 年 9 月 1 日	策定委員委嘱		
平成 30 年 9 月 3 日	第 4 回プロジェクト会議	第 1 回策定委員会提出（案）について	社協職員 5 名
平成 30 年 9 月 7 日	第 1 回策定委員会	・委員長、副委員長の選任について ・地域福祉活動計画の概要について ・策定の進捗状況及び今後の進め方について	委員 6 名 社協職員 3 名
平成 31 年 1 月 4 日	第 5 回プロジェクト会議	第 2 回策定委員会提出（案）について	社協職員 5 名
平成 31 年 2 月 8 日	第 2 回策定委員会	・地域福祉活動計画（案）について - 審議及び承認	委員 6 名 会長 社協職員 3 名

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(目的及び設置)

第1条 社会福祉法人九戸村社会福祉協議会（以下「本会」という。）は、九戸村地域福祉活動計画（以下「計画」という。）を策定するため、九戸村地域福祉活動計画策定委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(組 織)

第2条 この委員会は、下記の団体の代表者又は推薦された者で組織し、本会会長が委嘱する。

- (1) 九戸村社会福祉協議会
- (2) 九戸村民生児童委員協議会
- (3) 九戸村ボランティア連絡協議会
- (4) 九戸村老人クラブ連合会
- (5) 九戸村地域包括支援センター
- (6) その他学識経験者等

(委員会の任務)

第3条 委員会は、本会会長の諮問を受けて、「地域活動福祉計画」について、審議を行い、その結果を答申するものとする。

(任 期)

第4条 委員の任期は、委嘱の日から2年とする。

- 2 委員に欠員が生じたときは、速やかに補欠委員を委嘱するものとし、補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第5条 委員会には、委員長1名及び副委員長1名を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会務を統括し、委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、委員長の職務を代行する。

(会 議)

第6条 会議は、委員長が召集し、会議の議長となる。

- 2 会議は、委員の過半数が出席しなければ、これを開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。
- 4 委員会が、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聞くことができる。

(事務局)

第7条 委員会の事務局は、本会内に置く。

(報酬・費用弁償費)

第8条 委員の報酬及び費用弁償費は、第6条第1項で召集された委員会に出席することにより支給し、本会役職員等の報酬支給に関する規則を準用するものとする。

(その他)

第9条 この要綱に定めるもののほか、委員会に関し必要な事項は、委員長が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、平成29年3月1日から施行する。

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会地域福祉活動計画策定委員

(任期：平成30年9月1日～平成32年8月31日)

役職名	氏 名	所属団体	備考
委員長	葉 澤 博	学識経験者	
副委員長	中 澤 哲 雄	九戸村社会福祉協議会	
委 員	若 山 秀 一	九戸村民生委員・児童委員協議会	
委 員	佐々木 ト マ	九戸村ボランティア連絡協議会	
委 員	高 崎 覺 志	九戸村老人クラブ連合会	
委 員	坂野上 克 彦	九戸村地域包括支援センター	

社会福祉法人九戸村社会福祉協議会役員

(任期：平成29年6月22日～平成30年度に関する定時評議員会終結の時迄)

役職名	氏 名	所属団体	備考
会 長	木 村 正 樹	有識者	
副会長	若 山 秀 一	九戸村民生委員・児童委員協議会	
副会長	中 澤 哲 雄	九戸村老人クラブ連合会	
理 事	佐々木 ト マ	九戸村地域婦人団体協議会	
理 事	高 崎 覺 志	九戸村議会産業民生常任委員会	
理 事	安 藤 サチ子	九戸村ボランティア連絡協議会	
理 事	平 中 昭 夫	九戸村身体障害者協会	
理 事	栗谷川 洋 子	九戸福祉会施設長	
監 事	小野寺 隆 雄	九戸村監査委員	
監 事	高 橋 治 巳	税理士	

九戸村地域福祉活動計画

平成31年3月発行

編集・発行 社会福祉法人九戸村社会福祉協議会

住 所 〒028-6502 岩手県九戸郡九戸村大字伊保内 7-39-4
(九戸村総合福祉センター内)

T E L 0195-41-1200

F A X 0195-42-2064

E-mail kunohe@kunohe-shakyo.jp

ホームページアドレス <http://www.kunohe-shakyo.jp/>

